

令和 5 年度

事業報告書

令和5年度第13期(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)の
事業活動について、次の通り報告いたします。

令和6年3月31日

公益財団法人 国際交通安全学会

会 長 武 内 和 彦

目次

令和5年度事業活動の概況	1
1. 事業目的	2
2. 事業内容	2
3. 展開にあたっての重点	2
4. 令和5年度の特記すべき活動	2
5. 主たる会議	3
1) 評議員会	3
2) 理事会	3
3) 創50戦略会議	4
4) 企画調整委員会	6
5) 創50事業企画推進委員会	7
6) 年次交流会	8
6. その他	8
国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業	13
I 研究調査事業	14
1. 令和4年度研究調査報告会	14
2. 創50プロジェクト	15
<2300R>	
国際共同研究展開プロジェクト	15
<2300S>	
国際共同社会実装展開プロジェクト	17
3. 令和5年度研究調査プロジェクト	19
<2301B>(継続)	
SDGs達成に向けた健康資本増進による豊かな地域の創出	20
<2302B>(継続)	
自動運転車と共生する社会ーその基盤整備に向けた包括的提言	22
<2303A>(新規)	
無信号横断歩道における車両の譲り促すための実証的研究	25
<2304C>(継続)	
アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究	27

< 2305A > (新規)	
XR を活用した事故メカニズムの解明と安全対策 ～北日本地域での異常気象時を中心に～	29
< 2306B > (継続)	
人工知能を用いた効率的な交通取締りに関する研究	31
< 2307B > (継続)	
カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施	33
< 2308A > (新規)	
協調的幸福感を高める交通社会の共生設計の試みーサステナビリティから豊かさを備えたリジェネレーションへ	35
< 2309A > (新規)	
日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究	37
< 2310A > (新規)	
子育てしやすい子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの開発と適用	40
< 2311A > (新規)	
ウェルビーイングの実現を目指す新たな二輪車ブランディング	42
< 2312A > (新規)	
小型電動モビリティの受容性, 安全性向上に向けた環境整備に関する国際比較研究	44
< 2313A > (新規)	
カーボンニュートラル時代の自動車交通	46
< 2314A > (新規)	
都市はウォークアブルになるべきなのか?ーデータに基づく分野横断的議論ー	48
< 2320A 社会貢献 >	
ウォークアブル・シティ評価手法の成果公表と実装	50
< 2321A 社会貢献 >	
中山間エリアの高校における交通課題解決のための教育活動	52
< 2330 海外調査 >	
未来の都市の交通及び安全に係る取り組みの調査研究	54
< 2370 国際発表 >	56
4. 令和 5 年度研究調査内部報告会	58
5. 研究調査部会企画委員会	58
II 広報出版事業	60
1. 広報出版部会 学会誌編集委員会	60

2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会	61
III 褒賞事業	66
1. 第 44 回(令和 4 年度)国際交通安全学会賞贈呈式	66
2. 第 45 回(令和 5 年度)国際交通安全学会賞	66
3. 令和 5 年度褒賞助成部会企画委員会	68
IV IATSS フォーラム事業	70
1. IATSS フォーラム研修 再開	70
2. 新研修コンテンツ開発	70
3. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会	70
V 国際交流事業	73
1. 国際フォーラム実行委員会	73
2. ATRANS(Asian Transportation Research Society)への業務委託	74
3. ESRA(E-Survey of Road users' Attitudes)3 プロジェクトへの参画	75
4. 海外研究機関等とのネットワークの強化	76
VI 事業運営等	76
1. IATSS の主たる事務所(旧ホンダ八重洲ビル 3 階)の移転	76
財務諸表	79
1. 貸借対照表	80
2. 正味財産増減計算書	82
3. 正味財産増減計算書内訳表	84
4. 財務諸表に対する注記	87
5. 付属明細書	88
6. 財産目録	89

監査報告書(別紙)

令和 5 年度事業活動の概況

1.事業目的

「理想的な交通社会の実現に寄与する」

2.事業内容

- 1)交通及びその安全に関する調査研究
- 2)交通及びその安全に関する研究会の開催
- 3)交通及びその安全に関する情報、資料及び文献の収集及び発行
- 4)交通及びその安全に関する調査研究、教育その他の活動に対する褒賞
- 5)諸外国における理想的な交通社会の実現に向けた研修
- 6)その他本会の目的を達成するために必要な事業

3.展開にあたっての重点

- 1)学際性並びに国際性を特徴とした先見性及び実際性を目指す、活力ある事業運営
- 2)社会及び経済環境を直視した事業規模とし、予定される収入を基とする効率的かつ均衡のとれた事業運営の継続

4.令和5年度の特記すべき活動

1)創立50周年(令和6年)に向けた施策推進

創50戦略会議を中心に行う国際性の高い事業のひとつである、「第9回国際フォーラム(GIFTS)」において、「交通文化が支える持続可能な社会」をテーマとしたシンポジウムを行った。会場へ聴衆をお招きしつつ、インターネットを通じた配信を含めたハイブリッド形式で開催し、会場で94名、リモートで24か国から226名の方々に聞いて頂いた。

また、50周年事業を推進する創50事業企画推進委員会が中心となり、「回顧」「感謝」「賞賛」「展望」を基軸とした記念事業として、記念出版や2024年9月17日に開催される記念式典、および関連イベントの企画が推進された。

2)ジャーナルインパクトファクターの取得

広報出版部会 英文論文集編集委員会を中心に、IATSS Research のジャーナルインパクトファクターを獲得すべく活動を行ってきたが、2023年6月に Clarivate 社によって、ジャーナルインパクトファクター 3.2 が初めて付与された。

3)IATSS フォーラム研修事業の再開

IATSS フォーラム部会では、コロナ禍の影響で3年間にわたって中断していた来日フォーラム研修を、本年度より再開した。

中断期間中に事務所を鈴鹿市白子駅近辺、研修拠点を四日市市に移転し、コロナ禍が完全収束したとは言えない状況の下、通常55日間のプログラムを35日間に短縮して実施した。

中断期間中に準備を進めていた新プログラムとして、東日本大震災からの復興と持続可能な地域発展をテーマとした東北フィールドスタディを導入し、また一部セミナー内容も刷新した。

5.主たる会議

1)評議員会

第 27 回評議員会(定時評議員会)(R05.06.14)

経団連会館 5 階パールルームおよびオンラインにて開催し、次の(1)項については承認され、(2)、(3)、(4)項については決議され、(5)項については報告された。

- (1) 令和 4 年度事業報告および決算承認の件
- (2) 評議員選任の件
- (3) 役員選任の件
- (4) 理事・監事及び評議員報酬規程改定
- (5) 主たる事務所(八重洲事務所)移転報告

第 28 回評議員会(臨時評議員会)(R06.03.13)

経団連会館 5 階 502 号室およびオンラインにて開催し、次の(1)、(2)項について決議された。

- (1) 令和 6 年度事業計画及び収支予算書承認の件
- (2) 理事選任の決議の件

2)理事会

第 58 回理事会(通常理事会)(R05.05.17)

経団連会館 5 階ルビールームおよびオンラインにて開催し、次の(1)については承認され、(2)、(3)、(4)項については決議され、(5)、(6)項については報告された。

- (1) 令和 4 年度事業報告及び決算書類等の承認の件
- (2) 第 27 回評議員会(定時評議員会)招集の決議の件
- (3) 顧問委嘱の件
- (4) 海外招待会員新任・再任の件
- (5) 代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告
- (6) 主たる事務所(八重洲事務所)移転報告

第 59 回理事会(臨時理事会)(R05.06.14)

経団連会館 5 階パールルームおよびオンラインにて開催し、次の(1)については選定され、(2)項については決議された。

- (1) 代表理事選定の件
- (2) 顧問委嘱の件

第 60 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R05.10.6)

理事 11 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかったため、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

- (1) 専門部会付随活動における外部識者への会長規則時限的準用の件 (適用追加)

第 61 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R06.02.27)

理事 11 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があつたものとみなされた。

- (1) 第 28 回評議員会開催の件
- (2) 第 45 回国際交通安全学会賞承認の件

第 62 回理事会(通常理事会)(R06.03.13)

経団連会館 5 階 502 号室およびオンラインにて開催し、次の(1)、(3)、(4)項については決議され、(2)項については承認され、(5)項については報告された。

- (1) 小学生・中学生・高校生を対象とした助成事業の開始に関する決議の件
- (2) 令和 6 年度事業計画書及び収支予算書等承認の件
- (3) 新会員選任および会員再任承認の件
- (4) 顧問委嘱の決議の件
- (5) 代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

第 63 回理事会(臨時理事会)(R06.03.13)

経団連会館 5 階 502 号室およびオンラインにて開催し、次の(1)については選定され、(2)項については決議された。

- (1) 代表理事(副会長)選定の決議の件
- (2) 顧問委嘱の件

3)創 50 戦略会議

「創 50 戦略会議」は、平成 27 年 3 月に「創 50 IATSS ビジョンに関する諮問委員会」より小口会長(平成 27 年当時)に最終答申された「基本方針」に基づき、中長期的観点から具体的施策を展開するため設置されたものである。令和 5 年度は下記の事項について審議し承認した。

(1)創 50 戦略会議開催実績

第 1 回会議(R05.10.11)

- ・第 9 回 GIFTS について、委員長から準備の状況が報告された。
- ・国際共同研究展開プロジェクトについて、プロジェクトリーダーから進捗が報告された。
- ・国際同社会実装展開プロジェクトについて、プロジェクトリーダーから進捗が報告された。
- ・創 50 事業企画推進全般について、委員長から進捗が報告された。また、クロスストラテジーについて、委員長より提案があつた。
- ・「国際連携の在り方検討 WG」について、座長から「国際連携の相互関係図とロードマップ」が報告され承認された。またワーキンググループの解散が決定された。
- ・海外名誉顧問(自薦者)について、まず IATSS リサーチのエディターとしての貢献を提案することを決定した。

第 2 回会議(R06.01.11)

- ・第 9 回 GIFTS 開催結果について、委員長より報告された。

- ・国際同社会実装展開プロジェクトについて、プロジェクトリーダーから進捗が報告された。
- ・創 50 事業企画推進全般の進捗について、委員長より報告された。
- ・来年度定年延長の対象となる会員 5 名の候補について審議が行われ、内 3 名(今井会員、小川会員、斎藤会員)を定年延長候補者として理事会に上申することと決定した。また他 2 名(守谷会員、矢ヶ崎会員)については、本人の意向を確認した上で、対応(会員延長または顧問委嘱)を決定することとした。
- ・海外招待会員の新任候補者について、第 9 回 GIFTS の登壇者 3 名(Lotte Brondum 氏、Linza Wells 氏、Nicolas Ward 先生)に打診することを決定した。
- ・今後の「創 50 戦略会議」会議体、部会・委員会構成について、引き続き本会議体で議論していくことを確認した。
- ・ユース助成制度の新規立上げについて、事務局より提案があり、承認された。
- ・令和 6 年国際自転車安全会議(ICSC, International Cycling Safety Conference)について、事務局より進捗の説明があった。
- ・クロスストラテジーについて、議長より進捗の報告があった。

(2)国際連携の在り方検討ワーキンググループ(WG)の開催と実績

前年度創 50 戦略会議にて、若手半数、創 50 メンバー半数からなるワーキンググループを立ち上げ、そこで、将来視点に立ち、現在の国際連携の在り方を検討し、提案することが決定された。

第 1 回 WG 検討会(R05.06.20)

- ・第 3 回創 50 戦略会議(R05.03.22)における、質疑、意見の共有が行われた。
- ・上記の対応についての議論と今後の進め方の検討が行われた。

(3)創 50 戦略会議メンバー(敬称略)

議長	中村 文彦	(IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
副議長	中村 彰宏	(IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
	武内 和彦	(IATSS 会長/(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長、東京大学 特任教授)
	河合 信之	(IATSS 専務理事)
	橋居 賢治	(IATSS 常務理事)
	岸井 隆幸	(IATSS 理事/(一財)計量計画研究所 代表理事)
	久保田 尚	(IATSS 理事/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)
	蓮花 一己	(IATSS 理事/帝塚山大学 名誉教授 客員教授)
	一ノ瀬 友博	(IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 教授)
	小川 和久	(IATSS 会員/東北工業大学総合教育センター 教授)
	上條 俊介	(IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
	北村 友人	(IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科教授)
	土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科教授)
	中村 英樹	(IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科教授)
	二村 真理子	(IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部 教授)
	森本 章倫	(IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

藤澤 一郎 (IATSS 事務局長)

(4)国際連携の在り方検討ワーキンググループメンバー(敬称略)

議長 中村 文彦 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
岸井 隆幸 (IATSS 理事/(一財)計量計画研究所 代表理事)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
栗谷川 幸代 (IATSS 2021 年度新会員/学会誌編集委員会委員)
塩見 康博 (IATSS 2022 年度新会員)
二村 真理子 (IATSS 会員/学会誌編集委員会委員長)
馬奈木 俊介 (IATSS 2020 年度新会員/GIFTS 国際フォーラム実行委員会委員)

4)企画調整委員会

(1)新会員紹介イベントの企画・開催

令和 5 年度の新会員 3 名を既存の関係者へ紹介し、活動の活性化を図るため、以下のイベントを企画/実施した。

IATSS 新会員デビュートーク概要

開催日 :令和 5 年 9 月 19 日

場所 :ハイブリッド開催

内容 :新会員からのプレゼンおよび質疑

新会員 :井料 美帆氏、川口 純氏、久保 正男氏

参加者 :会場・リモート併せて 44 名

(新会員 3 名、役員・評議員 6 名、顧問 11 名、会員 24 名)

(2)令和 6 年度新会員候補者の選考

当委員会での議論の結果、新会員候補を 4 名選考し、会長に上申した。

(3)委員会開催実績

第 1 回委員会(R05.06.08)

- ・当委員会のミッションについて再度確認した。
- ・令和 6 年度新会員候補の募集・選考方針を検討・決定した。
- ・令和 5 年度の新会員デビュートーク企画案を検討・決定した。
- ・各部会委員会の令和 5 年度の年間計画を共有した。

第 2 回委員会(R05.09.20)

- ・新会員デビュートークの実施報告がなされた。
- ・令和 6 年度新会員候補者リスト 46 名について討議し、第一次選考の結果、27 名に絞り込み、次回二次選考までに、各委員の手持ち 5 票として、5 名の候補者に事前投票することとした。
- ・各部会委員会の進捗状況を共有した。

- ・年次交流会(令和6年1月11日)の開催について情報共有され、各委員長の出席が依頼された。
- ・令和6年度、IATSSが国際自転車安全会議(ICSC)を主催することについて情報共有された。

第3回委員会(R05.11.27)

- ・令和6年度新会員候補選考について、委員による事前投票の結果一覧に基づく検討の結果、最終的に4名の会員候補を選定した。
- ・各部会委員会の進捗状況を共有した。

第4回委員会(R06.03.15)

- ・各部会委員会の進捗状況を共有した。
- ・令和7年度新会員候補の募集・選考方針を検討・決定した。
- ・令和6年度の新会員デビュートーク企画案を検討・決定した。

(4)企画調整委員会メンバー

- 委員長 中村 文彦 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
- 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)
- 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学総合教育センター 教授)
- 上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
- 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
- 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科教授)
- 中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
- 二村 真理子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科 教授)

5)創50事業企画推進委員会

(1)委員会開催実績

第1回委員会(R05.08.01)

- 八重洲サロンとリモートとのハイブリッドで開催され、下記事項が情報共有・議論された。
- ・令和5年度計画
 - ・各事業の現状共有
 - ・記念式典企画案

第2回委員会(R05.11.21)

- リモートで開催され、下記事項が情報共有・議論された。
- ・ユース助成(褒賞)制度
 - ・創50戦略会議報告内容
 - ・GIFTSのワークショップにおける議論進め方

(2)企画委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
委員 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
矢ヶ崎 紀子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

6)年次交流会

目的:理事・監事・評議員と、各部会委員長との情報交換、交流

内容:各委員会より最新活動の報告+意見交換会

年次交流会概要

開催日:令和6年1月11日(木) 17:00~19:00

場所:経団連会館 5F 503・504

内容:第一部 委員会活動報告会
第二部 意見交換会

参加者:役員、評議員、会員 22名

6.その他

1)人事関連の登記事項

(1)評議員

氏名	登記事項	登記日
石附 弘	3月22日評議員辞任に伴う抹消登記	令和5年4月17日
鎌田 聡	3月22日評議員就任に伴う登記	令和5年4月17日
齊藤 毅	6月14日評議員辞任に伴う抹消登記	令和5年7月20日
安田 啓一	6月14日評議員就任に伴う登記	令和5年7月20日

(2)理事

遠藤 昭雄	6月14日理事退任に伴う抹消登記	令和5年7月20日
久保 公人	6月14日理事就任に伴う登記	令和5年7月20日

*重任に伴う登記情報は記載しておりません

2)理事及び監事

(R06.03.31)

役 職〔勤務〕	氏 名(敬称略)	現職〔国家公務員出身者最終官職〕
会 長〔非常勤〕	武内 和彦	(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)理事長 東京大学特任教授
副会長〔非常勤〕	加藤 稔	本田技研工業(株)執行職
専務理事〔常勤〕	河合 信之	本田技研工業(株)特別職 〔関東管区警察局長〕
常務理事〔常勤〕	橋居 賢治	本田技研工業(株)主幹
理 事〔非常勤〕	久保 公人	尚美学園大学 理事長
	鎌原 俊二	日本文化大学学長 〔大阪府警察本部長〕
	岸井 隆幸	(一財)計量計画研究所代表理事 政策研究大学院大学客員教授
	久保田 尚	埼玉大学大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門教授
	深澤 淳志	(一財)関東地域づくり協会 理事長 〔国土交通省道路局長〕
	宮寄 拓郎	救急ヘリ病院ネットワーク理事 (公社)自動車技術会フェロー 〔国土交通省自動車交通局技術安全部長〕
	蓮花 一己	帝塚山大学 客員教授
監 事〔非常勤〕	鈴木 雅文	本田技研工業(株)取締役監査委員会委員
	平田 久美子	税理士/平田久美子税理士事務所

3)評議員

(R06.03.31)

氏名(敬称略)	現職
鎌田 聡	(株)ジャパン・アイディー顧問
栗原 典善	OFFICE NORI 代表
木場 宣行	(一社)日本自動車整備振興会連合会専務理事
佐々木 真郎	(公財)交通事故総合分析センター理事長
友竹 明彦	(公財)三井住友海上福祉財団専務理事
林 良嗣	中部大学持続発展・スマートシティ国際研究センター卓越教授
宮田 年耕	首都高速道路(株)顧問
安田 啓一	本田技研工業(株)執行職

4)共催等

(1)共催

①16th ATRANS Annual Conference

～“Transportation for Better Lives: Transforming Transportation Industry Towards Decarbonization, Sustainability, and Safety”～

開催日 : 令和 5 年 9 月 1 日(金)

場所 : Chatrium Grand Bangkok Hotel, Thailand

主催 : ATRANS (Asian Transportation Research Society)、(公財)国際交通安全学会

(2)協賛

①令和 5 年春の全国交通安全運動

開催日 : 令和 5 年 5 月 11 日(木)～20 日(土)

主催 : 内閣府・警察庁等 10 府省庁、都道府県、市区町村、関係 13 団体

②令和 5 年秋の全国交通安全運動

開催日 : 令和 5 年 9 月 21 日(木)～30 日(土)

主催 : 内閣府・警察庁等 10 府省庁、都道府県、市区町村、関係 13 団体

③令和 5 年度 交通安全フォーラム 日本一、安全で安心な交通社会の実現に向けて

開催日 : 令和 5 年 12 月 20 日(水)

浦添市てだこホール

主催 : 内閣府、沖縄県、沖縄県議会、沖縄県警察

(3)後援

無し

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業

I 研究調査事業

1. 令和4年度研究調査報告会(R05.04.14)

参加者：役員、評議員、顧問、会員、特別研究員、諸官庁、報道関係及び一般参加者 計 156 名
場所：対面及びオンラインでのハイブリッド開催

報告テーマ：

2207A カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施

2203C ウォークアブル・シティ評価手法の開発

2208C 電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究

2220 データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信

2.創 50 プロジェクト

<2300R>

国際共同研究展開プロジェクト

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、世界各国における交通安全文化に関する地域的差異を客観的に認識し、体系的に理解することを目指した創 50 戦略研究プロジェクトの第 3 期 2 か年目に位置づけられるものである。本年度は、交通安全文化の差異に基づく交通事故リスク因果構造の解明に向けて、世界 48 か国における ESRA2 データを、国際機関による公開統計データなどと組み合わせて用いた構造方程式モデルの改良を行った。交通安全文化と強い関係があると考えられる各国の気候条件を考慮することで、3E (Engineering, Education, Enforcement) と運転態度・行動、交通違反・交通事故経験に至るメカニズムを表現することができ、その構造が地域によって異なることを確認した。

また、ESRA2 データを用いて、利用交通手段や職業ドライバーなどのセグメントに着目した不安全行動や交通事故リスクに関する国際比較分析を引き続き行った。その結果、利用交通手段別分析においては、公共交通利用者・歩行者の認識と自動車運転者の意識に大きな乖離がみられることを確認した。また、職業ドライバーに関する分析では、不安全行動に対する認識が各国の特に発展段階に応じて大きく異なることから、これらをグループ別にモデル化することを試みた。

令和 5 年 7 月 17～21 日に、カナダ・モントリオールで開催された WCTR 2023 (The 16th World Conference on Transport Research) に参加し、本プロジェクト企画のスペシャルセッション“International Comparison of Traffic Safety Culture: Global Research Alliance on Traffic and Safety Project (IATSS)”にて発表および討議を行った。また、令和 6 年 3 月 12 日に、ドイツのダルムシュタット専門大学において海外メンバーを含めた全体会議を開催し、研究結果および今後の方向性についての議論を行った。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(R05.06.06)

プロジェクトの趣旨の確認と進め方の議論

ESRA2 データを用いた各分析の報告と議論

WCTR 2023 (カナダ・モントリオール) スペシャルセッションの企画確認

・WCTR 2023(R05.07.17～21)

本プロジェクト企画のスペシャルセッション“International Comparison of Traffic Safety Culture: Global Research Alliance on Traffic and Safety Project (IATSS)”にて発表および討議

・第 2 回研究会(R05.09.20)

WCTR 2023 スペシャルセッションの報告

ESRA2 データを用いた各分析の報告と議論

・第 3 回研究会(R05.12.15)

Country Fact Survey (CFS) の今後のあり方についての議論

ESRA2 データを用いた各分析の報告と議論

全体会議の計画検討

・第4回研究会(R06.02.29)

ESRA2 データを用いた各分析の報告と議論

CFS の今後のあり方についての議論

全体会議の企画確認

・全体会議(R06.03.12)

ダルムシュタット専門大学にて、これまでの研究成果とプロジェクトの方向性に関する議論(ドイツ・ダルムシュタット)

(3) プロジェクトメンバー

PL 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

井料 美帆 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科 准教授)

塩見 康博 (IATSS 会員/立命館大学理工学部 教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 教授)

特別研究員

井上 勇一 (IATSS 顧問)

鈴木 一史 (静岡理工科大学理工学部 准教授)

鳥海 梓 (東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門 助教)

Ghassan Abu-Lebdeh (Professor, American University of Sharjah, UAE)

Mohamed Shawky Ahmed (Associate Professor, Ain Shams University, Egypt)

Wael K. M. Alhajyaseen (Associate Professor, Qatar University, Qatar)

Nicola Christie (Professor, University College London, UK)

Tina Gehlert (German Insurers Accidents Research, Germany)

Nan Kang (Associate Professor, Nanjing Tech University, China)

Babak Mehran (Assistant Professor, Manitoba University, Canada)

Lorenzo Mussone (Associate Professor, Politecnico di Milano, Italy)

Keshuang Tang (Professor, Tongji University, China)

Wouter Van den Berghe (Tilkon BV, Belgium)

Axel Wolfermann (Professor, Hochschule Darmstadt, University of Applied Sciences, Germany)

研究協力者

Xiaheyila Xukelaiti (名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程 1年)

<2300S>

国際共同社会実装展開プロジェクト

(1) 研究目的と概要

令和元年から着手された GRATS(Global Research Alliance on Traffic and Safety、2019-2021年)の活動の主たる目標は、交通文化観点で国際比較調査を実施するとともに、国内外の研究者や研究機関・国際機関と連携することにより、先進的な交通政策を討議・提案するための共通のプラットフォームを構築することであった。その成果として令和 3 年国際フォーラム(GIFTS)で示された「共有ビジョン」に基づき、その中の「指標」については学術レベルの取り組みとして ESRA(E-Survey of Road users' Attitudes)と連携しながら国際比較研究を継続実施していく役割として、令和 4 年度から「国際共同研究展開プロジェクト」が立ち上がった。また同時に「セーフシステム」については、実務レベルの取り組みとして社会実装を担う本プロジェクト「国際共同社会実装展開プロジェクト」が開始された。

本プロジェクトに於いて、社会実装を進める3つのアプローチとして、「1.情報連携」「2.評価」「3.教育」を設定した。「情報連携」については、まずは国際協力機構(JICA; Japan International Cooperation Agency)との連携を強化し、その取り組みに於いて一つの連携のモデルを構築し、他研究機関や国際機関へ連携拡大を狙うものとする。「評価」については、道路交通安全都市データベースの構築、「教育」については、IATSS フォーラム等との連携により、アジアを中心とする発展途上国の継続的な人材育成を目指すものとする。

(1) 研究経過

・第1回研究会(R05.05.16)

国際機関における交通安全活動について
IATSS と JICA との連携について
道路交通安全都市データベースについて

・第2回研究会(R05.07.20)

国際機関との情報連携について

- ・IATSS 創 50 事業活動スケジュール(案)
- ・IATSS 国際共同社会実装展開プロジェクトの目標について
- ・令和 5 年 APRSO (Asia Pacific Road Safety Observatory)総会 (R05.12.05-07、マニラ)の進捗報告

IATSS と JICA との連携について

- ・JICA 道路交通安全クラスターの今後の展開
 - ・発展途上国における都市環境に応じた交通安全対策アプローチ
- 道路交通安全都市データベース
- ・都市レベルで見た交通安全の関連性分析

・第3回研究会(R05.10.17)

国際機関との情報連携について

- ・令和 5 年 APRSO 総会の進捗報告
- ・IATSS 創 50 事業との連携
- ・16th ATRANS ANNUAL CONFERENCE の報告

道路交通安全都市データベースについて

- ・都市と交通安全の関係

人材育成について

- ・IATSS フォーラムとの連携、JICA インターンシップ・プログラムの支援

その他

- ・IATSS 国際共同社会実装展開プロジェクトの今後の展開(案)
- ・プロジェクト推進における留意点

・第4回研究会(R06.01.09)

国際機関との情報連携について

- ・令和5年 APRSO 年次総会の出張報告
- ・令和6年 APRSO 年次総会@東京(東京スタディーツアー)の情報共有

その他

- ・プロジェクト推進における留意点

・第5回研究会(R06.03.07)

令和6年 APRSO 年次総会(東京スタディーツアー)について

- ・状況アップデート
- ・宇都宮スタディーツアー案概要

道路交通安全都市データベースについて

令和6年度 GIFTS について

(2) プロジェクトメンバー

PL 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

赤羽 弘和 (IATSS 顧問/千葉工業大学創造工学部 教授)

福田 敦 (IATSS 顧問/日本大学理工学部 教授)

長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授)

北野 尚宏 (早稲田大学理工学術院 教授)

小泉 幸弘 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 次長) 令和6年1月退任

小柳 桂泉 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 参事役)

須原 靖博 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 課長)

近藤 竜平 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 主任調査役)

吉田 綾 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 専門嘱託) 令和6年1月退任

渡邊 すみれ (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 副調査役)

橋津 慎 (内閣府 交通安全企画調査担当専門職)

Lee Chun Hwee(早稲田大学理工学術院創造理工学部 修士課程1年) 令和6年1月選任

3. 令和 5 年度研究調査プロジェクト

令和 5 年度は、次の 17 件の研究調査プロジェクト等を実施した。

《自主研究》

- 2301B SDGs 達成に向けた健康資本増進による豊かな地域の創出
- 2302B 自動運転車と共生する社会ーその基盤整備に向けた包括的提言
- 2303A 無信号横断歩道における車両の譲りを促すための実証的研究
- 2304C アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究
- 2305A XR を活用した事故メカニズムの解明と安全対策 ～北日本地域での異常気象時を中心に～
- 2308A 協調的幸福感を高める交通社会の共生設計の試みーサステナビリティから豊かさを備えたリジェネレーションへ
- 2309A 日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究
- 2310A 子育てしやすく子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの開発と適用
- 2311A ウェルビーイングの実現を目指す新たな二輪車ブランディング
- 2312A 小型電動モビリティの受容性, 安全性向上に向けた環境整備に関する国際比較研究
- 2313A カーボンニュートラル時代の自動車交通
- 2314A 都市はウォークアブルになるべきなのか? ーデータに基づく分野横断的議論ー

《行政・団体連携》

- 2306B 人工知能を用いた効率的な事故抑止対策に関する研究

《IATSS フォーラム連携》

- 2307B カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施

《社会貢献》

- 2320A ウォークアブル・シティ評価手法の成果公表と実装
- 2321A 中山間エリアの高校における交通課題解決のための教育活動

《海外調査》

- 2330 未来の都市の交通及び安全に係る取り組みの調査研究

<2301B>

SDGs 達成に向けた健康資本増進による豊かな地域の創出

(1) 研究目的と概要

日本では人口減による地域の疲弊は、特に都市部よりも地方において顕著な社会課題となっている。本提案の別府市等の温泉地は、人口減、観光客の減少による地域経済の疲弊が起こっている。本プロジェクトでは、地域資源の科学的根拠を実証し、適切に活用することで、地域や来訪者の健康を増進し、地域の活性化と人的資本の増進を推進することを目的とする。別府市はもとより、他の温泉地域も含めて行政と連携して、温泉地(自然資本)を活用して、健康(健康資本)に資する交通・まちづくりの在り方と地域ごとの取り組みを進める。

目的達成のために、まず地域資源の科学的根拠を実証すること(テーマ A)、および駅からの周遊のためのウォーカビリティを含む交通および、まちづくりの検討(テーマ B)を進めてきた。

- (A) 硫黄泉入浴により、有益菌であるビフィズス菌とアナエロスティペスが有意に増加、また健康に有用な短鎖脂肪酸が有意に増加した。以上により、温泉入浴の健康促進効果を示す研究成果が得られた。
- (B) 別府温泉と熱海温泉の観光地における交通ネットワークやウォークアブルに関するアンケート調査を行った。今後分析を行う。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(R05.05.22)

本研究プロジェクトの概要、今年度の計画について議論
話題提供(高橋氏の国交省での取組み、中村教授の研究成果)

・第 2 回研究会 (R05. 09. 07) +長野県浅間温泉視察(R05. 09. 07-08)

長野県浅間温泉視察結果共有(浅間温泉観光協会、松本市役所)
話題提供「温泉と健康 ～温泉入浴が腸内細菌叢に与える影響～」(武田助教)

・第 3 回研究会 (R05. 12. 07) +神奈川県箱根視察(R05. 12. 07-08)

神奈川県箱根視察結果共有(箱根観光協会、鉄道/バス/ケーブルカー/ロープウェイ)
Web アンケートについて情報共有、本プロジェクトの進め方について議論

・第 4 回研究会 (R06. 02. 26)

内部報告会に向けて資料構成などの議論
来年度の提案研究調査プロジェクトの内容について情報共有
Web アンケートの進捗について情報共有

(3) プロジェクトメンバー

- PL 馬奈木 俊介 (IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院都市交通工学講座 教授)
一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

- 中村 寛樹 (久留米大学基盤教育研究センター 教授)
武田 美都里 (九州大学都市研究センター 特任助教)

溝田 勉 (IATSS 顧問/長崎大学 名誉教授)

米田 誠司 (國學院大學観光まちづくり学部 教授)

玉置 哲也 (香川大学創造工学部 准教授)

オブザーバー

荒金 恵太 (国土交通省国土交通政策研究所 主任研究官)

高橋 慶 (国土交通省交通政策研究所 研究官)

<2302B>

自動運転車と共生する社会 ―その基盤整備に向けた包括的提言―

(1) 研究目的と概要

自動運転車の社会実装が迫り、自動運転車に対する期待が高まる中、喫緊の課題を確認し、その解決を目指す。第一に、自動運転車の公道での利用を可能にした法制度を確認する。令和4年改正道交法は、レベル4の技術利用を許可する制度を導入した。これは国際的にも最先端と評価できる制度であり、令和5年4月の施行を前にして、同制度を正確に理解する。第二に、同改正法の射程を確認し、より広い場面でレベル4の実用化を目指す。そのために、第三として、自動運転車の利用に向けた先進的取り組みを確認し、今後の課題を抽出する。

令和5年度(2年目)の成果

- ・自動運転車(レベル2相当)に係る事故の検討
- ・レベル2での事故防止策、調査の在り方の確認
- ・自動運転車(レベル4相当)の活用方法。医療用物資や生活必需品の搬送。過疎化、高齢化が進む地域のニーズに即して。
- ・自動運転車(レベル2相当)、東京都庁前での実証実験に参加。そこから見えてきた将来の課題への対応
- ・ディレンマ状況への対処は不可欠(思考実験に止まらない実践的課題)。義務論 vs 目的論(功利主義等)。両者の安易な併用ではなく、両者を架橋する視点の設定と具体的基準の検討。

(2) 研究経過

第1回研究会(R05.05.30)

- ・内部報告会アンケートを参考にして、1年目の研究の振り返り
- ・今年度の研究予定、研究テーマの確認

第2回研究会(R05.08.21)

- ・日本医科大学 千葉北総病院 救命救急センター 視察報告
- ・東大生産研究所_柏 自動運転の実証実験視察報告

第3回研究会(R05.10.20)

- ・自動運転車 事故調査報告書の検討
- ・ISO 最新版の要点

第4回研究会(R05.12.22)

- ・UK の状況
- ・IATSS Review の三論文
- ・京阪バス自動運転について

第5回研究会(R06.02.27)

- ・内部報告会案についての意見交換

(3) 国内/海外調査

国内調査_千葉北総病院 (R05.06.20)

- ・D-Call Net 情報交換

国内調査_東大生産研究所 柏 (R05.08.08)

- ・自動運転の実証実験視察

国内調査_京阪バス (R05.10.05)

- ・自動運転バスについて意見交換

海外調査_UK (R06.03.10-17)

- ・UK 状況の情報交換_London
- ・UWE バス視察_Milton park
- ・バス視察_Edinburgh

国内調査_北海道庁 (R06.03.22-25)

- ・北海道大学で資料調査
- ・札幌弁護士会所属の弁護士と意見交換
- ・北海道庁自動運転担当者と意見交換

(4) プロジェクトメンバー

PL 今井 猛嘉	(IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授)
岩貞 るみこ	(IATSS 会員/モーター・ジャーナリスト)
大口 敬	(IATSS 会員/東京大学 生産技術研究所 教授)
上條 俊介	(IATSS 会員/東京大学 生産技術研究所 准教授)
木林 和彦	(IATSS 会員/東京女子医科大学 医学部 教授)
篠原 一光	(IATSS 会員/大阪大学大学院 人間科学研究科 教授)
杉本 洋一	(IATSS 会員/株式会社本田技術研究所 フェロー)
菅沼 直樹	(IATSS 会員/金沢大学 高度モビリティ研究所 教授)
中尾田 隆	(IATSS 会員/池袋南法律事務所 弁護士)
中村 彰宏	(IATSS 会員/中央大学 経済学 教授)
平岡 敏洋	(IATSS 会員/一般財団法人日本自動車研究所 新モビリティ研究部 主席研究員)
森本 章倫	(IATSS 会員/早稲田大学大学院 創造理工学部創造理工学研究科 教授)
吉田 長裕	(IATSS 会員/大阪公立大学 大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

宮寄 拓郎	(IATSS 理事/救急ヘリ病院ネットワーク 理事)
鶴賀 孝廣	(IATSS 顧問)
松村 良之	(IATSS 顧問/北海道大学 名誉教授)
矢野 雅文	(IATSS 顧問/東北工業大学 客員研究員)
石附 修	(IATSS 顧問/日本市民安全学会 会長)
結城 雅樹	(北海道大学 文化研究員 教授)
長谷川 晃	(北海道大学 大学院法学研究科 名誉教授)

大澤 彩 (法政大学 法学部 教授)
LEBRETON Caroline (法政大学 大学院 法律研究科 および 通信教育法学部 兼任講師)
清水 和夫 (モーター・ジャーナリスト)
佐藤 昌之 (ITS Japan 法務主査)
小川 貴裕 (弁護士法 AdIre 法律事務所 弁護士)
宮木 由貴子 ((株)第一生命経済研究所 取締役 主席研究員)
鈴木 陽子 (株式会社テクノバ モビリティ研究部 主任)
池田 大介 (東雲総合法律事務所 弁護士)
膳場 百合子 (早稲田大学 理工学術院 教授)
若月 将史 (京橋法律事務所 弁護士)
阪井 光平 (弁護士法人 カイロス総合法律事務所 弁護士)
波多野 邦道 (本田技研工業株式会社 エグゼクティブチーフエンジニア)
高山 寧 (野村不動産ホールディングス株式会社 取締役 (監査等委員))
佐藤 秀貴 (東京臨海病院 救急科 部長)
小田 友哉 (国立極地研究所 南極観測センター 医師)
本村 友一 (日本医科大学 千葉北総病院 救急救命センター 講師 医師)

オブザーバー

多田 義隆 (国土交通省 自動車局 自動運転戦略室 室長)
成富 則宏 (警察庁 交通局 交通企画課 自動運転戦略室 室長)
山田 樹 (警察庁 交通局 交通企画課 自動運転戦略室 課長補佐)
保坂 和人 (山口地方検察庁 検事正)
東山 太郎 (法務省 法務総合研究所 総務企画部 部長)
仲戸川 武人 (法務省 刑事局 参事官)
平野 賢 (法務省 刑事局付)
日野 香里 (北海道 経済部 産業振興局 産業振興課 課長補佐)
高井 雅木 (国土交通省 大臣官房官庁営繕部 整備課 特別整備室 企画専門官)
福永 茂和 (経済産業省 製造産業局 ITS・自動走行推進室 室長)

<2303A>

無信号横断歩道における車両の譲りを促すための実証的研究

(1) 研究目的と概要

持続的な交通管理の課題として、信号機の維持管理の問題が挙げられており、信号機によらない歩行者横断歩道の運用が増加してく可能性がある。一方で、無信号横断歩道での一時停止率の低さも指摘されており、その対策が求められている。海外では閃光により運転者の注意喚起を促す Rectangular Rapid Flashing Beacons (RRFB)を横断歩道の施設対策として整備し、横断歩行者の通行利便性を向上させようとする取り組みがある。そこで、本研究では、海外における無信号横断歩道の設置方法や車両の一時停止を促すための対策方法の整理を行ったうえで、日本の無信号横断歩道において閃光型の注意喚起施設の導入可能性を検討する。

1) 北米における RRFB の交通実態調査

- ・北米では、2007 年頃から RRFB の導入が始まり、令和 5 年に MUTCD (Manual on Uniform Traffic Control Devices) に正式に位置づけられた
- ・導入の判断は、車両の交通量と歩行者の交通量で行っている

2) 日本における無信号横断歩道の通行実態調査

- ・交通実態調査による平均譲り率(3 日間/10 時間観測)は 40.9%であった
- ・歩行者の横断位置に近い車線を走行する車両ほど譲り率は高いことがわかった
- ・横断歩行者は、車両が「停止」・「通過」するかを自身で確認してから横断を開始する傾向がある

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(R05.05.18)

プロジェクトメンバーの自己紹介

本研究調査プロジェクトの概要説明と今年度の計画について

・千葉県津田沼駅前での観測調査(R05.09.11-13)

RRFB 実証実験の候補地であり、かつ歩行者事故が発生した無信号横断歩道での歩行者優先の実態把握と事故の危険性を明らかにするため、現地において観測調査を実施

・第 2 回研究会(R05.11.22)

RRFB の実験結果、および千葉県での複数車線での調査概要について情報共有

海外視察について目的、内容を情報共有

・カナダ海外視察(R06.01.06-11)

カナダのバンクーバー、およびビクトリアにて RRFB の導入状況とその効果を把握するために RRFB のメーカー訪問、現地交通状況の視察を実施

・第 3 回研究会(R06.02.14)

カナダ視察の報告、千葉県での観測調査の報告、内部報告会に向けて資料の整合を実施

(3) プロジェクトメンバー

- PL 小早川 悟 (IATSS 会員/日本大学工学部交通システム工学科 教授)
関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学工学部機械工学科 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/(一財)日本自動車研究所新モビリティ研究部 主席研究員)
松橋 啓介 (IATSS 会員/国立環境研究所社会システム領域 室長)
田久保 宣晃 (IATSS 会員/(公財)交通事故総合分析センター研究部 次長)

特別研究員

- 高田 邦道 (IATSS 顧問/日本大学 名誉教授)
福田 敦 (IATSS 顧問/日本大学工学部交通システム工学科 教授)
松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター)
大谷 亮 ((一財)日本自動車研究所 主任研究員)
菊池 浩紀 (日本大学工学部交通システム工学科 助教)
青山 恵里 (日本大学工学部交通システム工学科 助手)
吉村 暢洋 (日本大学大学院理工学研究科 社会人院生)

<2304C>

アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究

(1) 研究目的と概要

近年、運転者の健康状態が交通事故の主要な危険因子であることが報告されており、わが国でも健康起因事故防止は交通事故対策の重要な課題と認識されている。しかし、特にアジア地域において健康起因事故対策は未だ十分に行われていない。

そこで本プロジェクトでは、令和2年度の社会貢献プロジェクトで作成した普及啓発動画について視聴後アンケートを実施し、普及啓発効果を検証することを目的とした。令和5年度は国内において各動画の普及啓発を行うとともに、日本、中国、タイにおいて啓発動画の視聴後アンケートを実施し、国際比較を行った。

国内における健康起因事故防止の普及啓発活動

・YouTubeの動画視聴回数は、「睡眠時無呼吸症候群運転絵巻」が6,039回、「緑内障運転絵巻」が4,681回、「睡眠時無呼吸症候群と交通事故」が3,245回、「緑内障と交通事故」が41,349回であった。

日本、中国、タイにおける啓発動画の視聴後アンケートの実施と国際比較

- ・日本、中国、タイで「睡眠時無呼吸症候群運転絵巻」、「緑内障運転絵巻」の動画視聴後アンケートを実施した結果、日本では「睡眠時無呼吸症候群運転絵巻」に393名、「緑内障運転絵巻」に815名、中国では各動画にそれぞれ99名、タイでは98名が回答した。
- ・中国、タイでは日本以上に潜在的に睡眠時無呼吸や緑内障の患者が存在する可能性が考えられた。
- ・啓発動画は中国、タイにおいても高評価であり、健康起因事故防止の取組として有用であると考えられることから、今後更に、本動画による健康起因事故防止の普及啓発の推進が望まれる。

(2) 研究経過

第1回研究会(R05.05.17)

- ・メンバー紹介
- ・今年度のプロジェクト概要の説明

第2回研究会(R06.02.21)

- ・アンケート調査について
- ・内部報告会に向けて

3) その他の活動

- ・2023年度、啓発動画の使用許可依頼が9件あった。

(3) プロジェクトメンバー

PL 高橋 正也	(IATSS 会員/(独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 センター長)
浅野 水辺	(IATSS 会員/愛媛大学大学院医学系研究科 教授)
大口 敬	(IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)

太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
岡村 和子 (IATSS 会員/科学警察研究所 交通科学部交通科学第二研究室 室長)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 主任教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)

特別研究員

国松 志保 (医療法人社団済安堂 西葛西・井上眼科病院 副院長)
和田 裕雄 (順天堂大学医学部 教授)
友岡 清秀 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 助教)
佐藤 准子 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 助教)
白濱 龍太郎 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 非常勤講師)
福島 史人 (埼玉県済生会加須病院救急医学科 科長)
奥山 祐輔 (黒井産業(株)黒井交通教育センター マネージャー)
金 会庆 (安徽三联事故予防研究所 所長)
ミヨー ニエン アング (順天堂大学国際教養学部 特任教授)

Naricha Chirakalwasan (Chulalongkorn University)

植田 結人 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 助教)
朱 沁曄 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
庄 岩 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
黄 家琦 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)

オブザーバー

上田 享 (国土交通 省物流・自動車局 安全政策課 専門官)
井上 大輔 (警察庁 交通局 交通企画課 法令係 係長)
田中 陽 (警察庁 交通局 運転免許課 課長補佐)
松山 隆 (警察庁 交通局 運転免許課 係長)

<2305A>

XR を活用した事故メカニズムの解明と安全対策 ～北日本地域での異常気象時を中心に～

(1) 研究目的と概要

XR(クロスリアリティ)は、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)、SR(代替現実)など、現実社会と仮想世界を融合させる技術の総称であり、交通研究でも急速に活用されてきた。本研究では、異常気象や夜間など通常的手法では状況の再現性が困難な交通状況を取り上げ、事故リスクを高めるドライバーの行動や事故発生メカニズムを検証して、具体的な対策の提言に結び付けることを目的とする。

令和 5 年度は、冬期の高速道路視程不良時、および一般道交差点右折時における横断歩行者との錯綜環境下での運転支援方を念頭に、XR 実験による支援評価を行った。具体的には、北日本地域に特徴的な降雪時及び凍結時のドライバー行動を対象として、視界不良時の行動(直進時や右左折時のハザードの見落とし等)を分析することで、その対策案として、見落としたハザードに対する AR-HUD(AR 技術を用いたヘッドアップディスプレイ)や道路上への視線誘導用ガイドライトなど、いくつかの技術的対策を XR 技術で映像化し、それらの効果評価を実施した。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(R05.06.20)
 - プロジェクト概要説明・質疑
 - 右折時の歩行者事故に関する研究の報告・議論
 - 視程不良時の事故対策に関する研究の報告・議論
- ・第 2 回研究会(R05.09.01)
 - 北海道大学予備実験結果総括
 - 本実験に向けての実験内容の議論
- ・第 3 回研究会(R05.10.30)
 - 近畿大学予備実験結果総括
 - 本実験に向けての実験内容の議論
- ・第 4 回研究会(R06.02.16)
 - 北海道大学本実験結果の報告・議論
 - 近畿大学本実験結果の報告・議論
 - 内報について共有
 - 来年度提案に向けて議論

(3) プロジェクトメンバー

- PL 浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科 教授)
神田 直弥 (IATSS 会員/東北公益文科大学学長・教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/(一財)日本自動車研究所主席研究員)

特別研究員

- 蓮花 一己 (IATSS 理事/帝塚山大学 客員教授)
萩原 亨 (北海道大学大学院工学研究院 教授)
飯田 克弘 (大阪大学大学院工学研究科 准教授)
森泉 慎吾 (帝塚山大学心理学部心理学科 准教授)
多田 昌裕 (近畿大学情報学部情報学科 准教授)
高橋 翔 (北海道大学大学院工学研究院 准教授)
八木 雅大 (北海道大学工学院北方圏環境政策工学専攻)
二宮 芳樹 (名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所 特任教授)
邢 健 (高速道路総合技術研究所交通環境研究部 交通研究担当部長)
萩田 賢司 (科学警察研究所交通科学部交通科学第一研究室 主任研究官)
洪性敏 ((財団法人)華城市研究院 都市環境研究室 研究委員)
佐藤 久長 (中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)名古屋支店 交通技術部長)
福井 千菜美 (北海道大学大学院工学研究院)

研究協力者

- 太田 竜太郎 (近畿大学情報学部情報学科 修士課程 2 年)
森本 貴大 (近畿大学情報学部情報学科 4 年)

<2306B>

《行政・団体連携》

人工知能を用いた効率的な事故防止対策に関する研究

(1) 研究目的と概要

これまで交通取締りは長年の経験をもとに、現場で効率的な取り締まり計画をたてていた。平成 23 年からは交通取締り計画が PDCA に組み込まれ、事故実態や分析結果を反映した計画立案がなれているが、都道府県単位でシステムが異なり、担当者の技術力に依存することが大きい。第 11 次交通安全基本計画では、地理的情報等に基づき交通事故分析の高度化を図り、交通事故抑止に資する交通指導取締りを推進することを重点施策としている。また、令和 3 年にデジタル庁が創設され、行政のデジタル化の積極的な推進が急務となっており、交通安全分野においても標準化などの対応が必要となっている。

国際交通安全学会では平成 26 年から「交通取締りハンドブック」を発行し、交通取締りに関わる関係者への継続的な情報提供を実施してきた。交通行政の現場からもビックデータを活用した効率化が求められている。また、人工知能を用いた交通事故リスクの予測については国内外で研究事例はあるが、それを用いて実際に取締り計画を立案している地域は見られない。特に実施した取締りの効果を明示的にモデルに組み込み、汎用的なモデルを開発した事例はない。

このような背景を受け、令和 4 年度に人工知能 AI を活用した効率的な事故抑止対策箇所を提案するモデルに関する基礎的研究を行った。令和 5 年度は基礎的なモデルの実地検証を行い、モデルを改良するとともに実用化にむけた課題を整理した。本研究で提案するデータを用いた事故防止対策箇所の最適な実施場所の予測ができれば、現場の経験とあわせてより効率的な交通事故抑止が可能となる。さらに、効果的な取締り計画の作成の一助となるように汎用的なアプリケーションを開発することで、多様な地域での展開が可能となると共に、対策効果をビックデータとして経年的に蓄積することで、地域に根差した対策案の検討ができる。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(R05.06.21)

令和 4 年度研究概要の報告・質疑

プロトタイプシステムの確認

令和 5 年度研究プロジェクトの説明・議論

基礎的モデルの改良状況の説明・議論

交通指導取締り活動支援システム試行期間中の効果検証方法の説明・議論

・第 2 回研究会(R05.09.28)

システム試行運用の計画説明・質疑

システム試行運用に向けた調整状況説明・議論

プロトタイプシステムの確認

システム試行運用期間中の効果検証方法の説明・議論

基礎的モデルの改良状況の報告・議論

・第 3 回研究会(R06.02.07)

システム試行運用の実施状況報告・質疑

システム試行運用期間中の効果検証報告・議論
基礎的モデルの改良状況報告・質疑
冬期の積雪時の取締り活動実施における課題説明・議論
令和5年度内部報告会の開催案内共有

(3) プロジェクトメンバー

- PL 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
加藤 一誠 (IATSS 会員/慶應義塾大学商学部 教授)
中川 由賀 (IATSS 会員/中京大学法学部 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科 教授)
田久保 宣晃 (IATSS 会員/(公財)交通事故総合分析センター研究部次長)
- 特別研究員
神谷 大介 (琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース 准教授)
眞中 今日子 (流通経済大学経済学部 准教授)
古川 修 (IATSS 顧問)
倉科 慧大 (早稲田大学大学院修士課程1年)
西田 泰
- 研究協力者
栗原 豊季 (早稲田大学創造理工学部社会環境工学科4年)
- オブザーバー
古泉 貴志 (警察庁交通局交通指導課 課長補佐)
箕輪 健二 (警視庁交通部交通総務課 課長代理)
渡邊 望 (国土交通省 道路局 道路交通管理課)
鈴木 大健 (国土交通省 道路局 道路交通安全対策室)
寺奥 淳 (株式会社建設技術研究所中部支社道路・交通部)
下原 祥平 (株式会社建設技術研究所東京本社道路・交通部)
山脇 正嗣 (株式会社建設技術研究所国土文化研究所 インテリジェンスサービスプラットフォーム)
木村 拓憲 (株式会社建設技術研究所国土文化研究所 インテリジェンスサービスプラットフォーム)
杉浦 淳徳 (株式会社インフォマティクス営業部)
麻生 拓哉 (株式会社インフォマティクス営業部)
佐竹 絵美 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)
小林 洸介 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)

<2307B>

カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施

(1) 研究目的と概要

アジアの多くの国で経済成長を実現するなかで、急速なモータリゼーションが進んでいる。それは、途上国であるカンボジアでも例外ではない。しかし、その弊害として、様々な交通課題が起きている。とくにカンボジアでは、幹線道路(国道 5 号線)の整備・高規格化に伴い、周辺地域での交通事故が増加している。この対策の一つとしてカンボジア政府のアクションプランに交通安全教育や行動変容プログラムが位置づけられ、日本の国際協力機構(JICA)による交通安全技術協力プロジェクトも立ち上げられた。

本プロジェクトでは、この JICA 事業と連携する形で、IATSS フォーラム・カンボジア同窓会(CIAA, Cambodia IATSS Alumni Association)と共同で行動変容プログラム・チームを立ち上げ、現地での実態把握ならびに交通安全教育の実施を行い、カンボジアにおける交通事故削減に貢献することを目指している。

本年度は、学校(小学校、中学校、高校)における交通安全教育のための交通安全に関する行動変容プログラムを、CIAA、カンボジア政府(公共事業・運輸省、教育・青年・スポーツ省)、JICAと連携しながら開発した。そして、プログラム開発後に、CIAA ならびに JICA と協働して現地の中学校でワークショップを開催し、子どもたちの交通安全意識を向上させ、行動変容を促すことを目指した。そのため、プログラムの事前・事後に質問紙調査を行い、その結果は来年度に分析する予定である。(今年度は、パイロット・プロジェクトとして、中学校でプログラムを実施した。来年度は、小学校や高校に対象を拡げて行く予定である。)

本研究を実施後は、他国の IATSS フォーラム同窓会とも連携して、東南アジア・南アジアの各地でも、こうしたプログラムの開発ならびに社会実装を行っていくことが見込まれる。さらに、IATSS として近年関係を深めている JICA との連携を具体化する取組としても、本研究を位置づけることができる。

(2) 研究経過

・質問紙改定検討会(R05.04.14)

昨年度のプレ調査結果を踏まえた質問紙の改定について

・アルメック(JICA 協力会社)との情報共有(R05.04.26)

進捗共有、今後の計画

・第 1 回研究会(R05.07.07)

質問紙内容の検討、現地出張計画の検討

・アルメックとの情報共有(R05.07.18)

進捗共有、現地出張・実施内容の詳細について

・アルメックとの打ち合わせ(R05.08.23)

現地出張調査の準備進捗確認

・現地調査委託先との打ち合わせ(R05.09.21)

・カンボジア出張(R05.10.25-27)

バタンバン州の中学校を 4 校選定し、コントロール校 2 校、トリートメント校 2 校に分け、行動

変容プログラム実施前後での質問紙調査を実施した。併せて、登下校の様子を撮影し、生徒の危険行動の確認を行った。

- アルメックとの情報共有(R05.12.25)
行動変容プログラム実施結果の共有
- JICA 情報共有(R05.12.26)
来年度以降のプロジェクトの進め方について

(3) プロジェクトメンバー

- PL 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
川口 純 (IATSS 会員/筑波大学教育学域 准教授)

特別研究員

- 山口 直範 (大阪国際大学人間科学部 教授)
葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科 助教)
Or Vitou (IATSS フォーラム・カンボジア同窓会 (CIAA) 会長)
Heang Omuoy (CIAA 副会長)
Prom Sophea (CIAA 副会長)
Nuon Kossoma (IATSS フォーラム・カンボジア事務局/CIAA メンバー)
Chhaly Samsokrith (CIAA メンバー)

<2308A>

協調的幸福感を高める交通社会の共生設計の試み —サステナビリティから豊かさを備えたリジェネレーションへ

(1) 研究目的と概要

近年「World Happiness Report」の測定に balance&harmony が追加されるなど協調的幸福感の要素が重視されており、包括的幸せとしての Well-being の向上が目標とされている。交通に目を向けると、個人の自由や自己実現を求める獲得的幸福を追求する自動車社会から、シェアリング交通や MaaS (Mobility as a Service) による「移動具・サービス (mobility measures and services)」の共有・利用社会への転換の兆しが見られる。しかし、それが普及し主流化する道筋や条件は明らかではない。

本プロジェクトは、移動具・サービスの共有と共同化が Well-being を向上させる条件と効果を明らかにすることを目的とする。これは、共有・共同化がもたらしうる協調的幸福感、さらには Well-being の向上に果たす効果を捉えるものであり、これを通じて交通社会の共生設計の試案を示すことを目指す。

今年度は蓄電池とライドシェアがもたらす協調的幸福感、および Well-being の向上効果の発現経路について調査した。交通社会における協調的幸福感、および Well-being については、その概念や計測方法が確立していない。研究会では、工学、環境学、経済学、心理学など、様々な観点から幸福感に関する影響要素とそれらが幸福感に作用する構造を議論し、その構造仮説を構築した。

具体的には、影響要因は、実利と社会的規範で構成されると仮定する。前者は効率性、信頼性、快適性等に加え、利用者数に依存するネットワーク外部性で構成され、後者は周囲からの評価と周囲への適合性で構成されるとした。それらに加えて、個人の心理的属性として、移動サービスに対する趣向と道徳理念を影響要因として考慮する。これらの要因は相互に関係し、幸福感は、自己効力感、社会規範への適合性、および技術利用がもたらす社会的影響に対する信念で特徴づけられると想定する。本年度は、日本を対象に 1200 サンプルのアンケート調査を実施し、この構造仮説を検証した。

(2) 研究経過

- ・コアメンバー打ち合わせ(R05.04.20)
年間活動計画、実施内容について
- ・第1回研究会(R05.05.25)
活動計画の共有、メンバー自己紹介
話題提供「Regenerative economy について」
「協調的幸福感」についての議論
- ・第2回研究会(R05.07.31)
「協調的幸福感」の概念整理
話題提供「セキュリティと道徳性の段階」

- ・第3回研究会(R05.09.21)
話題提供「進化の三段階とシステム創成の方法論から施策例を考える」
今後の方針・進め方について
- ・五島市視察(R05.11.15-16)
2313A プロジェクトで実施した五島市へのヒアリング・視察に同行し、EV、再生可能エネルギーの活用の状況を確認した。
- ・第4回研究会(R05.11.29)
五島市視察結果の共有
これまでの議論のまとめ、仮説モデルの共有
- ・第5回研究会(R06.01.23)
外部講師講演「ウェルビーイングと交通社会における共生」
内部報告会資料のまとめ方について
- ・国内アンケート調査(R06.02.13-16)
幸福感は、自己効力感、社会規範への適合性、および技術利用がもたらす社会的影響に対する信念で特徴づけられると想定し、日本を対象に1200サンプルのアンケート調査を実施し、この構造仮説を検証した。

(3) プロジェクトメンバー

PL 紀伊 雅敦	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
大口 敬	(IATSS 会員/東京大学生産研究所 教授)
中村 彰宏	(IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
松橋 啓介	(IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会システム領域 室長)
平岡 敏洋	(IATSS 会員/(一財)日本自動車研究所 主席研究員)

特別研究員

長谷川 孝明	(IATSS 顧問/埼玉大学 名誉教授)
太田 豊	(大阪大学大学院工学研究科 特任教授)
三好 博明	(同志社大学政策学部 教授)
葉 健人	(大阪大学大学院工学研究科 助教)
周 純瓢	(大阪大学大学院工学研究科 博士後期課程2年)

<2309A>

日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究

(1) 研究目的と概要

IATSS がラウンドアバウト(RAB)に関するプロジェクトに平成 21 年に着手して以来、継続的に調査研究を進めることで、導入検討調査～社会実験～社会実装～法改正に伴う本格展開、と各段階において着実に成果に結びついてきた。現時点では全国で 160 余の RAB が整備されるに至っているが、先進諸国の中での普及レベルにおいては未だ緒に就いたばかりの状況である。平面交差点において交通事故が未だ後を絶たず、自動運転車の導入も期待されている中で、国際的視点に立ちつつ、日本にふさわしい RAB を普及させていく必要性は高い。このため、日本で RAB の普及を阻む課題の特定と解決が必要である。本研究プロジェクトでは、日本で特に重視されると考えられる、省スペース、省コスト、簡易設計、多様な利用者、合意形成プロセスなどの課題対応について、独自のスペックや手法を検討し、諸外国との相違を明らかにするとともに、これらを積極的に発信していくことにより、日本の RAB 普及促進に資することを目的とする。

日本における RAB 導入に際して課題となる事項のニーズ調査として、国土交通省道路局の協力のもと、全国 1,700 以上の基礎自治体等へのアンケート調査を実施し、RAB に対する認知度とその地域分布特性、課題を明らかにした。本調査結果は、RAB に関する認知促進に際して、ターゲットのための基礎情報として有益な情報となる。同時に、省コスト型構造の必要性、合意形成などの課題を確認することができた。

また、小型など簡易構造の RAB に関して、文献と現地訪問により最新動向を収集した。海外の動向を参考とし、かつ上記のアンケート結果を考慮して、日本型 RAB としての課題整理と、特に幾何構造要件に関わる技術的検討を進めた。これより、今後小型 RAB の社会実験により実証すべき項目の整理を行った。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(R05.05.18)

研究方針の確認・議論

・アンケート調査(R05.09.28～10.31)

国土交通省道路局環境安全・防災課道路交通安全対策室の協力のもと、全国の国道事務所、都道府県、政令指定都市、市区町村を対象にアンケート調査を実施。調査の依頼は、例年、国土交通省が実施している「ラウンドアバウト設置状況調査」とあわせて、「ラウンドアバウト導入にかかる課題・ニーズ調査」として実施。

・第 2 回研究会(R05.08.03)

各ワーキンググループ(WG1～5)の活動進捗報告と議論

(WG1:日本における RAB 導入に際して課題となる事項のニーズ調査、WG2:海外動向調査、WG3:日本型 RAB の課題整理とスペック検討、WG4:セミナー開催検討、WG5:データベース更新作業)

・第 3 回研究会(R05.11.08)

各ワーキンググループの活動進捗報告と議論

・現地調査(R06.02.13～15)

RAB 視察、計画中 RAB に関する事業者との意見交換、小型 RAB 社会実験候補箇所の調整、

セミナー開催等に関する意向打診(宮崎県日向市、大分県津久見市、福岡県うきは市・八女市、長崎県諫早市)

・第4回研究会(R05.12.22)

各ワーキンググループの活動進捗報告と議論

・現地調査(R06.02.25～26)

RAB 視察、計画中の RAB に関する事業者との意見交換、小型 RAB 社会実験候補箇所の調整(岩手県北上市・平泉町、宮城県大崎市・仙台市、山形県山形市・酒田市・村山市・長井市)

・第5回研究会(R06.02.20)

各ワーキンググループの活動進捗報告と議論

内部報告会の発表方針の検討

・現地調査(R06.03.28～29)

セミナーの関係機関調整および会場下見(香川県高松市、高知県高知市)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科教授)

井料 美帆 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科 准教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 教授)

永田 潤子 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院都市経営研究科 教授)

浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科 教授)

特別研究員

阿部 義典 (国際航業(株)インフラマネジメント事業部 道路計画担当部長)

池田 武司 (国土技術政策総合研究所道路交通研究部道路交通安全研究室 室長)

上坂 克巳 (株)片平新日本技研 専務取締役)

大西 良平 (国土交通省道路局企画課 課長補佐)

奥城 洋 (セントラルコンサルタント(株)東北支社道路交通部 上級主任技師)

康 楠 (南京工業大学交通運輸工程学院 副教授)

神戸 信人 (株)オリエンタルコンサルタンツ交通運輸事業部 副事業部長)

久坂 直樹 (パシフィックコンサルタンツ(株)中部支社交通基盤事業部)

下川 澄雄 (日本大学理工学部 教授)

鈴木 大健 (国土交通省道路局環境安全・防災課道路交通安全対策室 企画専門官)

関口 貴志 (中日本建設コンサルタント(株)建設技術本部第1部 次長)

高瀬 達夫 (信州大学工学部 准教授)

高橋 健一 (三井共同建設コンサルタント(株)道路第一部 部長)

竹本 由美 ((一財)国土技術研究センター 上席主任研究員)

田中 耕司 (警察庁交通局交通規制課 課長補佐)

張 馨 (名古屋大学大学院環境学研究科 講師)

宮坂 好彦 (株)建設技術研究所東北支社道路・交通部 次長)

宗広 一徳 ((国研)土木研究所寒地土木研究所寒地交通チーム 主任研究員)

吉岡 慶祐 (日本大学理工学部 助教)

米山 喜之 (株)長大社会基盤事業本部第1道路部 担当部長)

渡部 数樹 (株)オリエンタルコンサルタンツ関東支社交通政策部 次長)

研究協力者

上田 元太 (名古屋大学工学部環境土木・建築学科 4年)

オブザーバー

松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)

牧内 一司 (飯田市建設部地域計画課 課長)

松平 博文 (飯田市建設部地域計画課 課長補佐)

四谷 晋司 (名古屋市緑政土木局道路維持課 主幹)

橋本 保則 (名古屋市緑政土木局道路維持課 主査)

多田 神 ((一財)国土技術研究センター 研究員)

<2310A>

子育てしやすく子どもにやさしい交通環境実現のための教育・行動変容プログラムの開発と適用

(1) 研究目的と概要

人口減少・少子高齢社会に直面する我が国において、子育てしやすく子どもにやさしい交通環境の整備が喫緊の課題である。本研究は、子ども連れおよび子どもの移動に必要な交通ルールやマナーに関する教育プログラム、および親による過度な車送迎を抑制するための行動変容プログラムを開発・適用し、その効果を検証することを目的とする。

本年度は、子育て予備軍である大学生に対して、子ども連れで外出することの大変さ、子ども連れで安全に外出するための方法を教えることにより、子ども乗せ自転車／ベビーカーに関する知識向上、将来の子育てに対する意欲向上、現在の子ども連れ外出者に対する理解向上効果を検証した。宇都宮大学、福井大学、宇都宮短期大学の学生計 123 名を対象に、子ども乗せ電動アシスト付き自転車とベビーカーの体験教室を行い、教室実施前後でアンケート調査を行うことにより、効果測定を行った。その結果、子ども連れ外出者に対する心のバリアフリーが醸成され、子育てに対する意識も向上したことが明らかとなった。また、男子学生は女子学生と比較して、教室実施前は子育てに対する意識が低かったが、教室実施後に女子学生と同じレベルまで向上するなど、個人属性による違いも明らかとなった。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会 (R05.06.26)

研究プロジェクト概要説明 (大森)

過度な車送迎抑制に関する話題提供 (谷口)

子どもの移動自由性に関する話題提供 (宮崎)

子どもの移動に関する研究プロジェクトの紹介 (Waygood)

・第 2 回研究会 (R05.10.24)

話題提供: ”Safe School Safe Surrounding for a Safe City”、Dr. Yong Adilah Binti Shamsul Harumain (Lecturer, Universiti Malaya)

研究プロジェクト進捗状況と今後の計画

・第 3 回研究会 (R06.02.22)

2 月のワークショップ結果共有

(3) その他の活動

宇都宮短期大学 子載せ自転車、ベビーカーのワークショップ (R05.12.06)

宇都宮大学 子載せ自転車、ベビーカーのワークショップ (R05.12.14)

福井大学 子載せ自転車、ベビーカーのワークショップ (R05.12.20)

宇都宮大学 子載せ自転車、ベビーカーのワークショップ (R05.12.25)

(4) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 大森 宣暁 (IATSS会員/宇都宮大学地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 教授)
中村 文彦 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)
松橋 啓介 (IATSS 会員/国立環境研究所地域計画研究室 室長)

特別研究員

- 太田 勝敏 (IATSS 顧問/東京大学 名誉教授)
松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター)
谷口 綾子 (筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授)
宮崎 耕輔 (香川高等専門学校 教授)
小嶋 文 (埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)
浅野 周平 (福井大学工学部 講師)
長谷川 万由美 (宇都宮大学教育学部 教授)
松田 妙子 (NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事)
北方 真起 (WALIFEPlanning 代表)
Owen Waygood (Polytechnique Montréal 准教授)
Tran Thi Phuong Anh (Danang University of Science and Technology 助教)
Parady Giancarlos (東京大学大学院工学系研究科 講師)
趙 勝川 (大連理工大学 教授)
Yong Adilah Binti Shamsul Harumain (Universiti Malaya)

研究協力者

- 宋 浩然 (宇都宮大学大学院 博士後期課程 1年)
Gledisa GOLIKJA (東京大学大学院工学系研究科 研究生)
加藤 舜 (宇都宮大学地域デザイン科学部 4年)

オブザーバー

- 山本 力也 (パナソニックサイクルテック株式会社)

<2311A>

ウェルビーイングの実現を目指す新たな二輪車ブランディング

(1) 研究目的と概要

SDGs のテーマである持続可能な環境社会を目指す中で、個人の自由な移動の実現とその質の向上が求められている。その実現には、多様な交通手段を目的に適して使い分けて利用できることが望ましい。現在、世界的に二輪車はパーソナルモビリティとして無視できない交通分担を担っているが、四輪車の自動・電動化、電動キックボードなど新しいカテゴリーの普及、MaaS などトータルモビリティサービスの考え方など改革期が来ている。

この大きな情勢変化を捕らえ、ウェルビーイング(幸福で肉体的、精神的、社会的に満たされた状態)を実現するための二輪車の新たな価値観の創成とその役割を社会に提案することを目的とする。

- ・本年度の話題提供・議論からプレイヤー別の対立課題や国・地域により、どこを基準としてウェルビーイングを向上するかの基準が異なり、単一的にまとめることが難しく、継続的かつ多様で全方位的な議論の場が必要と再確認された。
- ・JAMA(日本自動車工業会)との議論により、二輪車関連の死亡・重傷事故の低減ならびにイメージ改善による利用者の拡大を図り、有効な交通手段として再認識されることで、実用・趣味の両視点を通じた二輪活用促進が期待され、国内でのウェルビーイングの向上に寄与する可能性を見いだした。
- ・その実現に向けて、産官学の全方位的な組織と連携し、2030年までに死亡・重傷事故半減を目的とした組織体制の下準備が出来た。次年度以降、それにより有効な教育素材や教育方法・機会、道交法等の改正までを視野に入れた検討・提案を進める予定である。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R05.05.08)
 - メンバー自己紹介
 - 研究プロジェクトの概要・今年度の計画の共有
 - ウェルビーイングについてのブレインストーミング
- ・第2回研究会(R05.07.05)
 - ウェルビーイングについてのブレインストーミング
 - ヒアリング実施先の検討
- ・第3回研究会(R05.10.13)
 - 2321Aプロジェクトの事例紹介
 - 熊本県矢部高校での事例紹介
 - 上記を踏まえた2輪車の活用方法についての議論
- ・第4回研究会(R05.12.04)
 - 2輪車の使われ方についての議論
 - 自動車工業会(JAMA)の安全戦略について
- ・第5回研究会(R06.02.20)
 - これまでの議論のまとめ
 - 次年度計画(JAMAとの連携)についての共有

・熊本県立矢部高校でのヒアリング(R06.03.11)

・海外調査(R06.03.21-22)

タイ運輸省、地方運輸局にて、新たに導入された免許制度(減点制度)の導入背景、取り締まりの実態、実際の効果、交通安全教育の実情などのヒアリングを行った。

(3) プロジェクトメンバー

PL 関根 太郎	(IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)
中村 文彦	(IATSS 会員/東京大学大学院新領域創生科学研究科 特任教授)
北村 友人	(IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
小早川 悟	(IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
特別研究員	
福田 敦	(IATSS 顧問/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
西本 幸正	(IATSS 顧問)
田代 邦幸	(合同会社 Office SRC 代表)
大石 康夫	(本田技研工業(株) ソフトウェアデファインドモビリティ開発統括部 エキスパートエンジニア)
菊池 浩紀	(日本大学理工学部交通システム工学科 助教)
積田 典泰	(日本大学理工学部交通システム工学科 助手)

<2312A>

小型電動モビリティの受容性,安全性向上に向けた環境整備に関する国際比較研究

(1) 研究目的と概要

安全快適な交通の実現のため、電動キックボード、座り乗りの超小型モビリティなど様々な小型電動モビリティの普及展開が期待されている。2008A、2108B、2208C プロジェクト(先行研究)では、利用者の意識・挙動、法制度、自治体の立場から主に電動キックボードを対象として歩道・車道上で生じ得る課題整理を進めてきた。1-2 人乗りの小型電動モビリティを対象として社会的受容性、安全性向上に向けた環境整備に関する研究を行う。国際比較アンケート、海外実務者へのヒアリングを通じて、わが国の道路構造上の課題を明らかにする。また、歩行者、自転車、自動車との共存、分離の条件について挙動分析に基づいた検討を進め、安全な歩道、車道空間の提案を行う。

令和5年度(1年目)の成果

車道をメインに利用する小型電動モビリティに関する分析

- ・道路交通法改正後の電動キックボードの利用実態を把握し、道路幅員に余裕のある単路部では歩道上走行はほぼ見られず、車道通行ルールが浸透していること、一方、交差点部では、直進に比べて右左折方向に進行する際は、歩道上に進入するケースも多いことを確認した。VR シミュレータによる望ましい道路交通環境の検討を進める準備を行った。
- ・海外事例調査(米国)により、交差点部付近での左右確認の注意喚起、横断後の滞留スペースの確保、カラー舗装やポストコーンにより張り出し歩道を整備するなど、小型電動モビリティの通行空間についての構造上の工夫を確認した。

国際ワークショップ等による小型電動モビリティの普及展開上の課題把握

- ・世界交通学会でのスペシャルセッションの企画、英国 UCL ワークショップの開催を通じて、実務者、研究者から小型電動モビリティの普及展開上の課題について有益な情報を得た。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R05.05.11)
本年度のプロジェクトの目的、活動計画共有
昨年度活動のレビュー
- ・第2回研究会(R05.09.22)
WCTR スペシャルセッション・視察報告
進捗報告(ヒアリングほか)
- ・第3回研究会(R05.12.15)
海外研究の活動状況(UCL・PEARL, カタール)
WG 報告(国際比較調査分析・小型モビリティ利用者アンケート, 挙動観測, 国際 WS)
- ・第4回研究会(R06.02.15)
国際ワークショップ(3/8 英国 UCL PEARL・Zoom ハイブリッド開催)
内部報告会(15分)と次年度プロジェクト
WG 報告(アンケート調査, 挙動分析(新大久保調査))

- ・第5回研究会(R06.02.16)
WG1, WG3, WG5, WG4, WG2, WG6 の進捗報告
内部報告会打合せ
WCTR 国際会議セッション企画について共有化

(3) その他の活動

- ・WCTR でのスペシャルセッションと USA 市場調査(R05.07.16-23)
- ・ストーリーモ社との協業合意
- ・UCL における国際ワークショップ開催(R06.03.08)

(4) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
井料 美帆 (IATSS 会員/名古屋大学大学院 環境学研究科 准教授)

特別研究員

猪井 博登 (富山大学大学院 理工学研究部 准教授)
太田 勝敏 (IATSS 顧問)
鶴賀 孝廣 (IATSS 顧問)
柴山 多佳児 (ウィーン工科大学 Senior Scientist)
鈴木 一史 (静岡理工科大学理工学部土木工学科 准教授)
鈴木 立人 (ロンドン大学 研究技官)
高田 実宗 (駒澤大学法学部 准教授)
立松 秀樹 (㈱オリエンタルコンサルタンツ 中部支社総合計画部 副部長)
吉岡 慶祐 (日本大学 理工学部 助教)
Alhajyaseen Wael (カタール大学 准教授)
Nick Tyler (University College London 教授)

共同研究者

森 庸太郎 (株式会社ストーリーモ 代表取締役)
岸川 景介 (株式会社ストーリーモ 取締役)
橋本 英梨加 (株式会社ストーリーモ 取締役)

研究協力者

伊藤 大貴 (名古屋工業大学大学院 博士後期課程)
日比野 秀俊 (名古屋大学大学院 博士前期課程)

オブザーバー

宮城 卓志 (警察庁交通局交通企画課 課長補佐)
大沼 響 (警察庁交通局交通企画課 係長)

<2313A>

カーボンニュートラル時代の自動車交通

(1) 研究目的と概要

2050年のカーボンニュートラルの達成に向けて輸送手段の非化石化が指向されており、自家用車は電気自動車(EV)へのシフトが想定されている。このような社会での自動車利用にあたっては、非化石電力の効率的な活用が求められると同時に、充電設備等の新たな投資が必要となる。本プロジェクトではEVの普及促進を目的として、そのために必要となる充電インフラ投資の在り方や、必要数を確保するための費用負担、非化石電力活用のための工夫などについて調査することを目的とする。

令和5年度は日本におけるEV普及のための課題整理を元に、EV先進地域である長崎県五島市での調査を行った。同地域におけるEV導入支援政策や利用の実態、再生可能エネルギー活用による脱炭素社会の実現に向けた取組についてヒアリングを行った。住民は充電設備を自宅に持たずに、観光施設等の急速充電を1回ごとに費用を負担して利用しているものの、充電設備の費用を賄うまでの収入には満たず、行政の支援がベースとなっていることが分かった。また、インターネットアンケートを用いて、EV車選択の要因、自宅に充電施設を持たない人に対する充電環境の改善の方向性、充電施設における予期せぬ待ち時間に対する利用者の受け止めなどについての分析を行った。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R05.05.24)
- ・第2回研究会(R05.08.24)
- ・第3回研究会(R05.11.03)
- ・長崎県五島市視察(R05.11.15-16)
ヒアリングおよび充電施設や洋上風力発電の視察を実施。
- ・アンケートの内容に関し、ホンダのエネルギー環境部署へのヒアリング実施(R05.12.21)
- ・アンケート調査(WEBプレ調査)の実施(R06.01.04)
- ・アンケート調査(WEB本調査)の実施(R06.02.01-09)
- ・待ち時間に関する実験(WEBプレ実験)の実施(R06.02.05)
- ・待ち時間に関する実験(WEB本実験)の実施(R06.02.07)
- ・第4回研究会(R06.02.09)
- ・待ち時間に関する実験(WEB追加実験)の実施(R06.02.20-03.04)

(3) プロジェクトメンバー

PL 二村 真理子	(IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科 教授)
一ノ瀬 友博	(IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)
太田 和博	(IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
後藤 孝夫	(IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
小竹 元基	(IATSS 会員/東京工業大学工学院機械系 教授)
土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
中村 彰宏	(IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)

矢ヶ崎 紀子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科 教授)

特別研究員

竹内 健蔵 (IATSS 顧問/東京女子大学現代教養学部国際社会学科 教授)

小嶋 文 (埼玉大学理工学研究科環境科学・社会基盤部門 准教授)

手塚 広一郎 (日本大学経済学部 学部長・教授)

真中 今日子 (流通経済大学経済学部経済学科 准教授)

山崎 由大 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)

研究協力者

菊池 陽 (中央大学経済学研究科博士前期課程 1 年)

<2314A>

都市はウォークアブルになるべきなのか？－データに基づく分野横断的議論－

(1) 研究目的と概要

今日のまちなか整備で「ウォークアブル」は絶対的な善として位置づけられ、先進事例の紹介とともに、より歩きやすくするための工夫が数多く提唱されている。しかし、本当に都市はウォークアブルになれば良いのだろうか？

本研究はこの問題意識に立ち、メンバーが実測から取得するデータをもとにして、多様なメンバーで議論することで、今後のウォークアブル推進において考慮すべき点を抽出し、より良好なまちなか空間の創出手法を構築することを目指す。

令和5年度は研究会開催に加えて、千代田の Marunouchi Street Park、松本市のウォークアブルなまちづくり、神戸・三宮地区におけるウォークアブル空間の創出、大阪・御堂筋におけるウォークアブル空間の創出、ウィーン、ポンテベドラにおけるウォークアブルなまちづくり、について現地視察を行った。視察結果や各地の分析結果をもとに研究会で議論し、①「ウォークアブル」にすることによって得られる便益の評価に向けたアプローチ方法の整理、②現在提示されているウォークアブル空間評価方法の課題の整理、③ウォークアブル空間整備における留意点の抽出、④屋外空間利用の就労の場としての可能性の評価、を行った。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R05.05.30)
 - プロジェクトメンバーの自己紹介
 - 本研究調査プロジェクトの概要説明と今年度の計画について
- ・第2回研究会、東京都丸の内ストリートパークの視察(R05.08.21)
 - 丸の内ストリートパークの視察結果の共有
 - 本プロジェクトの進め方の議論、次回視察地について議論
- ・神戸三宮、大阪御堂筋の視察(R05.11.24-25)
 - 三宮駅周辺の公共空間のにぎわい創出のための再整備について視察
 - 側道歩行者空間化整備により広がった歩道空間などを活用しDX・GXなども展開した社会実験「御堂筋チャレンジ2023」を視察
- ・欧州海外視察(R06.02.07-14)
 - ウィーン、リンツ、ポンテベドラなどのウォークアブルシティ政策の先進事例を視察
- ・第3回研究会(R06.02.22)
 - 内部報告会での報告内容、および来年度のプロジェクト予定について議論を実施

(3) プロジェクトメンバー

- PL 村上 暁信 (IATSS 会員/筑波大学システム情報系 教授)
- 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)
- 神田 直弥 (IATSS 会員/東北公益文科大学 学長・教授)
- 久保 正男 (IATSS 会員/防衛大学校電気情報学群情報工学科 准教授)
- 後藤 孝夫 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
- 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地 教授)
- 特別研究員
- 小嶋 文 (埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)
- 柴山 多佳児 (ウィーン工科大学 Senior Scientist)
- オブザーバー
- 井上 莉緒 (大阪大学大学院工学研究科 修士課程 1 年)

<2320A>

ウォークアブル・シティ評価手法の成果公表と実装

(1) 研究目的と概要

日本では急激な人口減少、超高齢化を迎え、都市のコンパクト化が進められている。しかし、ただ単に都市をコンパクトにすれば良いわけではなく、都市の活力を維持し、魅力を向上させるために「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市再生が平成 31 年に国土交通省に設置された懇談会で提唱され、令和 2 年度から「まちなかウォークアブル推進プログラム」がスタートすることになった。令和 2 年度から取り組んできた研究調査プロジェクト「ウォークアブル・シティ評価手法の開発」では、欧米の研究や事例を参照し、ウォークアブルな都市(ウォークアブル・シティ)を包括的に評価する手法を研究してきた。本社会貢献プロジェクトではこれまでの成果をとりまとめ論文、図書として公表すること、国土交通省都市局と連携し、日本の都市のウォークアビリティ評価に成果を実装させることを目的とする。

【令和 5 年度(1 年目)の成果】

- ・国土交通省により松本市と丸ノ内で行われたまちなかの居心地の良さを測る指標の社会実験に参加し、指標について意見交換を行った
- ・オーストリアのウィーンとリンツ、スペインのマドリッドとポンテベドラにおいて、ウォークアブルなまちづくりについての現地調査を実施した
- ・ポンテベドラにおいては、1999 年から市中心部への車両の通行規制、制限速度の低減、道路緑化、駐車時間の制限、駐車場の再配置等の方法により、車両の交通量を劇的に削減し、歩行者数は急増した。その結果として交通事故死者はほぼ 0 となり、中心部の人口が 1 万人以上増加し、市街地の活性化に成功した。その成果により国連を始め、数々の賞を受賞している
- ・2203C の報告書を踏まえ、令和 6 年度に出版予定の図書の構成を検討した。出版については出版社との調整を進めている

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(R05.06.15)
本研究調査プロジェクトの概要説明と今年度の計画について
関連プロジェクトの紹介、国土交通省の指標公表について情報共有を実施
- ・長野県松本市の視察(R05.10.08)
長野県松本市の社会実験の視察、および国土交通省の指標にて評価を実施
- ・第 2 回研究会(R05.11.21)
国土交通省の社会実験について、来年度の図書の企画について議論を実施
- ・欧州海外視察(R06.02.07-14)
ウィーン、リンツ、ポンテベドラなどのウォークアブルシティ政策の先進事例を視察
- ・第 3 回研究会(R06.02.06)
内部報告会での報告内容、および来年度のプロジェクト予定について議論を実施
データ購入、および来年度の出版について情報共有と議論を実施
- ・鹿島出版社と出版についての打ち合わせ(R06.03.06)

(3) プロジェクトメンバー

- PL 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
紀伊 雅敦 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
松橋 啓介 (IATSS 会員/国立環境研究所社会システム領域 室長)
馬奈木 俊介 (IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院都市・交通工学講座 教授)
村上 暁信 (IATSS 会員/筑波大学システム情報系 教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

- 岩崎 寛 (千葉大学大学院園芸学研究科緑地環境学コース環境健康学領域 教授)
長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授)
小嶋 文 (埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)
柴山 多佳児 (ウィーン工科大学 Senior Scientist)
田島 夏与 (立教大学経済学部経済政策学科 教授)
鳥海 梓 (東京大学生産技術研究所人間・社会系部門 助教)

オブザーバー

- 乃口 智栄 (国土交通省都市局まちづくり推進課 企画専門官)
小宮 亜也加 (国土交通省都市局まちづくり推進課 まち再生係長)
松岡 里奈 (国土交通省都市局まちづくり推進課 事業管理係長)
井上 莉緒 (大阪大学大学院工学研究科 修士課程 1 年)

<2321A>

中山間エリアの高校における交通課題解決のための教育活動

(1) 研究目的と概要

大阪府立豊中高等学校・能勢分校は、中山間エリアに位置する学校であり、公共交通機関の利用に制限が生じるなど、「通学課題」に直面している。そこで、令和3年度と令和4年度に行政・団体連携プロジェクトを実施し、高校生に電動アシスト付き自転車(e-bike)という新たな交通手段を提供することで、交通のあり方の学習支援により課題解決力の向上を目指すとともに、地域課題全体の解決への展開を図ってきた。具体的には、生徒たちの運転行動を画像データとして記録し、どのようなリスク行動をとっているか等について分析を行い、その分析結果を踏まえた交通安全教育を実施してきた。令和5年度の社会貢献プロジェクトは、これまでの調査研究の成果を踏まえ、高校生たち自身で交通安全教育のあり方について考えてもらうことを目的として実施した。

今年度は、これまでの知見・経験を活かして、高校生たちが交通安全教育プログラムを開発し、それを中学生に対して実施した。具体的には、地元の中学校で、高校生たち自身が開発した教材を用いながら、とくに安全な自転車の乗り方などについてレクチャーを行った。

また、高校生たちが中心になって、道路管理者・警察・地域住民・道路利用者の方々と、安心して安全な道路環境の実現に向けて、実行可能な対策案を検討するワークショップを実施した。このワークショップには、生徒19名、高校教員3名、能勢町3名(道路課・地域交通の担当課)、大阪府4名(道路管理者)、警察1名、区長(住民代表)1名が参加した。ここでの議論を踏まえて、後日、大阪府池田土木事務所によって路肩の溝の注意を促す反射視線誘導板が設置された、という具体的な成果を上げることができた。

加えて、ナチュラリスティックデータを活用した高校生の自転車安全利用に関する行動変容の研究を行った。この研究を通して、ヘルメットの着用率が上がったり、危険回避のための運転行動にポジティブな変化が見られたりすることが確認できた。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R05.05.23)
 - 今年度の活動計画
 - 今年度ワークショップの計画説明
 - 大阪府立豊中高等学校能勢分校のe-Bike通学状況報告
- ・対象生徒説明会(R05.05.31)
 - これまでの活動の振り返り
 - 令和5年度活動計画の説明
- ・自転車安全運転研修(R05.07.10)
- ・交通安全授業 能勢町立能勢ささゆり学園(R05.7.19)
 - 能勢分校高校生による中学生のための交通安全授業実施
- ・第2回研究会(R05.10.31)
 - 今年度ワークショップについて
 - 交通安全授業 成果
 - 交通インフラWS計画
 - 評価に関するWG進捗

- ・地域の交通安全に関するワークショップ 浄るりシアター(R05.11. 20)
能勢分校の高校生、交通管理者、道路管理者、地域住民等参加の交通ワークショップ
- ・第3回研究会(R06.02.09)
今年度の取組み成果の報告
評価に関するWGについて
内部報告会・報告資料の内容整合
国土交通省事業の採択について(能勢・豊能まちづくり)
プロジェクトの今後の方向性について

(3) プロジェクトメンバー

- PL 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
 大森 宣暁 (IATSS 会員/宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
 川口 純 (IATSS 会員/筑波大学人間系教育学域 准教授)
 神田 直弥 (IATSS 会員/東北公益文科大学 学長)
 馬奈木俊介 (IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座 教授)
 吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

- 猪井 博登 (富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 准教授)
 奥山 祐輔 (黒井産業(株) 黒井交通教育センター本部マネージャー)
 柴山 多佳児 (ウィーン工科大学 Senior Scientist)
 中井 宏 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)
 山口 直範 (大阪国際大学人間科学部人間健康科学科 教授)
 山崎 瑛莉 (上智大学グローバル教育センター 講師)
 岸上 祐子 (九州大学大学院工学研究院 特任助教)
 葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科 助教)
 菅原 亮 (大阪府立豊中高等学校能勢分校 代表 准校長)
 上西 将司 (大阪府立豊中高等学校能勢分校 地域魅力化クラブ顧問教諭)
 熊手 俊行 (大阪府豊能郡能勢町役場 総務部総務課 課長)
 矢立 智也 (大阪府豊能郡能勢町役場 総務部総務課)
 榎原 友樹 (能勢・豊能まちづくり 代表取締役)
 永井 克治 (能勢・豊野まちづくり 地域サービス開発部)
 周 純甄 (大阪大学大学院工学研究科 博士後期課程 2年)
 石ヶ森 郁弥 (大阪公立大学大学院工学研究科 博士前期課程 2年)

研究協力者

- 河村 友哉 (大阪大学工学部環境・エネルギー工学科 4年)

<海外調査>

2330 未来の都市の交通及び安全に係る取り組みの調査研究

(1) 研究背景と目的

本プロジェクトは、若手研究者が交通と安全に関する自らの興味関心に基づいて、様々な国や地域を訪れ、実際のフィールドを見て学んだり、現地の研究者や実務者と会って、知見を得たり共有したりする機会の実現を支援するものである。著名研究者との面会、研究会合等への参加、視察(交通安全、都市、環境などに関わる先進事例)など、広範囲の活動を対象とする。本プロジェクトでの経験が若手研究者の成長に資することを期待すると同時に、将来的に IATSS で活躍いただける人材を育成する意味合いもある。

今年度は、昨年度のやり方を踏襲して、このプロジェクトの場を、異分野の研究者とのコミュニケーションの機会を持ったり、繋がりができたりするきっかけにしたいということから、これまで IATSS と関係性の深い 2 か国(英国、タイ)に調査対象国を絞り、若手研究者が同じような日程で現地に滞在してそれぞれの調査を行う傍ら、何回かお互いの調査状況を共有し、意見交換する機会を設けることとした。今年度は以下の 6 つの調査活動を行った。

英国

- ・「Livability の向上を目的とした地域共創型モビリティハブの最先端事例の調査と交通・まちの魅力づくりに関する考察」(周)
- ・「交通インフラの運営に対する運営主体の多様化の研究:効率的なネットワーク戦略や環境への配慮を中心にした調査」(中村)
- ・「英国ラウンドアバウトの設置計画と構造に関する実態調査」(吉岡)

タイ

- ・「タイにおける洪水発生時の交通管理に関する実態調査」(積田)
- ・「バンコクのパトランジット視察」(富岡)
- ・「アジア版 CMF 作成を目的としたバンコク中心部幹線道路、アジアハイウェイ路線の交通安全対策の実態、交通事故リスク状況の実態調査」(兵頭)

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会 (R05.04.26)
メンバー顔合わせ、調査概要の紹介と質疑等、IATSS 海外出張に係る手配・諸手当・費用精算概要の説明
- ・第 2 回研究会 (R05.07.12)
調査スケジュール最終案の紹介と質疑等
- ・第 3 回研究会 (R05.11.28)
調査報告発表と質疑等、内部報告会での発表及び報告書作成に関する概要説明
- ・内部報告会の資料準備と発表の実施 (R06.02.16-03.02)
- ・報告書提出と内容チェック (R06.03.15-19)

(3) プロジェクトメンバー

PL 中村 文彦 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
会員

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)

関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)

特別研究員

周 純甄 (大阪大学大学院工学研究科 博士後期課程)

積田 典泰 (日本大学理工学部交通システム工学科 助手)

富岡 秀虎 (早稲田大学大学院創造理工学研究科 助手)

中村 知誠 (慶應義塾大学商学部 助教(有期))

兵頭 知 (徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会基盤デザイン系 准教授)

吉岡 慶祐 (日本大学理工学部交通システム工学科 助教)

<2370 国際発表>

2205B 中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定

1920 東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装

(1) 研究目的と概要

「国際発表」プロジェクトは、以下の目的のため、前年度に実施した研究プロジェクトの中から、著しい成果の認められたプロジェクトに対し、国際的な会議等で発表する機会を設けるものである。

目的:

- ・IATSS の研究成果を国際的に広く周知すること
- ・期待される若手研究者に国際的な会議への参加の機会を提供すること
- ・IATSS の国際的な認知度を向上させること

今年度は、現地発表を前提とした国際発表の参加希望を募り、結果として下記 2 プロジェクトとなった。査読などの選考を経て発表に至ったのは①のプロジェクトであった。②については昨年度参加予定だったカンファレンスの開催が延期された為、本年度別のカンファレンスでの発表を行った。

① 2205B「中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定」

② 1920「東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装」

(2) 実績

① 2205B「中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定」

・発表イベント

イベント名 : 11th International Cycling Safety Conference(ICSC) 2023

開催地 : オランダ ハーグ(現地参加)

期間 : 令和 5 年 11 月 15~17 日

発表者 : 石ヶ森 郁弥(大阪公立大学大学院工学研究科修士課程 2 年)

・発表テーマと内容

タイトル : 「Analysis of High School Students' Safety Behavior Change through Workshops with Exploratory Learning by Using Naturalistic Cycling Data」

発表形式 : ポスターセッション

② 1920「東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装」

・発表イベント

イベント名 : 56th The International Commission for Driver Testing (CIECA) Congress in Dubai

開催地 : UAE ドバイ(現地参加)

期間 : 令和 6 年 3 月 6~8 日

発表者 : 菊池 浩紀(日本大学理工学部交通システム工学科 助教)

・発表テーマと内容

タイトル : 「Social Implementation of Information-Sharing Road Safety Measures: Case Study of Thailand」

発表形式 : 口頭発表

(3) プロジェクトリーダー及び発表者

① 2205B「中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定」

PL : 北村 友人 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

発表者 : 石ヶ森 郁弥 (大阪公立大学大学院工学研究科 修士課程2年)

② 1920「東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装」

PL : 福田 敦 (日本大学 理工学部 交通システム工学科 教授)

発表者 : 菊池 浩紀 (日本大学理工学部交通システム工学科 助教)

4. 令和5年度研究調査内部報告会(R06.03.02)

参加者 : 役員、評議員、顧問、会員および特別研究員 計 115 名
場所 : 対面及びオンラインでのハイブリッド開催
報告テーマ : 令和5年度実施の全プロジェクトテーマ

5. 研究調査部会企画委員会

1) IATSS サロン

・第1回 IATSS サロン(R05.07.06)

講演タイトル:『次世代交通とまちづくり』

講演者: 中村文彦会員、森本章倫会員

出席者: 30 人(会場: 12 人、リモート: 18 人)

・第2回 IATSS サロン(R05.10.12)

講演タイトル:『MaaS の本質』

話題提供者: 牧村 和彦氏 (一般財団法人計量計画研究所)

出席者: 12 人(対面開催)

・第3回 IATSS サロン(長崎視察)(R05.12.17-18)

長崎市(平成19年度、令和3年度 学会賞業績部門受賞の現地視察)

出席者: 会員 9 人

2) 委員会開催実績

第1回委員会(R05.05.15)

- ・(情報共有)研究調査部会企画員会 主な職務概要と前年度実績
- ・年間スケジュール
- ・合宿と IATSS2024 ワーキング Gr.活動について
- ・本年度課題について
 - ATRANS との関りについて
 - 内報開催要領の検討
 - IATSS サロン
 - 来年度以降のプロジェクト採択本数について

第2回委員会(R05.07.10)

- ・ATRANS との関り方
 - ATRANS への積極参加について
 - 内報での報告について
 - ATRANS 連携プロジェクト(仮)について
- ・来年度以降のプロジェクト採択本数について
- ・IATSS サロン年間計画

- ・内報開催方法の検討
- ・ATRANS のプロジェクト報告(招待する PL 数)と選考方法
- ・外報選考基準

第 3 回委員会(R05.10.23)

- ・IATSS サロン年間計画
- ・令和 6 年度 ATRANS 研究カテゴリーの決定
- ・GIFTS ワークショップ(12 月 2 日)への協力
- ・ATRANS のプロジェクト報告(招待する PL 数)と選考方法
- ・IATSS リサーチ インパクトファクター報告会開催(内報終了後)についての合意
- ・ATRANS 連携強化 --- ATRANS 整合結果共有(8 月末バンコク出張)
- ・来年度以降のプロジェクト採択本数について
- ・内報、外報基本方針決定
- ・3 月 19 日の 2 次選考ヒアリングについて(周知)

第 4 回委員会(R06.03.04)

- ・外報発表プロジェクト選考、国際発表プロジェクト候補選考及び外報開催方法共有
- ・令和 6 年度研究調査プロジェクトの一次選考と仮予算決定
- ・ATRANS 令和 5 年度プロジェクトテーマに対する IATSS 側アドバイザー候補承認

第 5 回委員会(PL 会議)(R06.03.19)

- ・令和 6 年度研究調査プロジェクト 2 次選考

3)その他の活動

研究調査プロジェクト提案書作成ガイダンス実施

第 1 回ガイダンス(R05.10.16) 6 会員参加(説明者:関根委員、高橋委員)

ガイダンス対象:3 名--井料 美帆 会員、久保 正男 会員、川口 純 会員

4)企画委員会メンバー(敬称略)

委員長 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

委員: 太田 和博 (IATSS 会員/専修大学 商学部 教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学教育類環境都市分野 教授)

関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学 理工学部 機械工学科 教授)

高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所センター長)

堀口 良太 (IATSS 会員/㈱アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

II 広報出版事業

定期刊行物としては、IATSS Review(国際交通安全学会誌)Vol.48, No.1～3 および IATSS Research(英文論文集)Vol.47, Issue 1～4 を発行した。

1. 広報出版部会 学会誌編集委員会

1)IATSS Review の発行

- Vol.48, No.1「特集/交通社会における行動変容を促す仕組み・仕掛け」(R05.06.30)
- Vol.48, No.2「特集/モビリティサービスにおける自動運転の社会実装」(R05.10.31)
- Vol.48, No.3「特集/COVID-19 がわが国の社会と交通に及ぼした影響」(R06.02.29)

2)投稿原稿区分の新設に関する検討

英文論文集(IATSS Research)の依頼論文の和文版を学会誌(IATSS Review)に投稿することの可否について、著者から英文論文集編集委員会へ問合せがあり、英文論文集編集委員会では、Elsevier(電子ジャーナル発行元)に確認のうえ協議を行い、「Elsevier の示す許諾条件を踏まえ、業績がダブルカウントされないように論文カテゴリーが配慮された場合、二次出版を認める」との判断がなされた。これを受け、学会誌編集委員会で協議を行い、投稿原稿区分に「二次出版」を新設する方向で投稿規定を改訂することについて、次年度より検討を進めることとした。

3)委員会開催実績

第 1 回(第 351 回)(R05.05.11)

- (1)Vol.48, No.1 進捗報告および確認
- (2)Vol.48, No.2 進捗報告および確認
- (3)Vol.48, No.3 特集企画検討
- (4)創立 50 周年特集号の企画検討
- (5)J-STAGE アクセス集計報告

第 2 回(第 352 回)(R05.07.12)

- (1)Vol.48, No.1 発行報告
- (2)Vol.48, No.2 原稿確認報告および審議
- (3)Vol.48, No.3 進捗報告および確認
- (4)創立 50 周年特集号の企画検討
- (5)J-STAGE アクセス集計報告

第 3 回(第 353 回)(R05.09.04)

- (1)Vol.48, No.2 進捗報告および確認
- (2)Vol.48, No.3 進捗報告および確認
- (3)Vol.49, No.1(創立 50 周年特集号)企画検討
- (4)Vol.49, No.2 特集企画検討
- (5)J-STAGE アクセス集計報告

第4回(第354回)(R05.10.31)

- (1)Vol.48, No.2 発行報告
- (2)Vol.48, No.3 原稿確認報告および審議
- (3)Vol.49, No.1(創立50周年特集号)企画検討
- (4)投稿 23-01、投稿 23-02 査読者決定
- (5) Vol.49, No.2 特集企画検討
- (6)J-STAGE アクセス集計報告

第5回(第355回)(R06.01.16)

- (1)Vol.48, No.3 進捗報告および確認
- (2)Vol.49, No.1(創立50周年特集号)進捗報告および確認
- (3)Vol.49, No.2 特集企画検討
- (4)Vol.49, No.3 特集企画検討
- (5)投稿 23-01、投稿 23-02 査読報告および審議
- (6)投稿 23-03 査読者決定
- (7)IATSS Research 掲載論文の和文版投稿(翻訳・二次出版)について
- (8)J-STAGE アクセス集計報告

4)学会誌編集委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 二村 真理子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科 教授)
- 木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授)
- 栗谷川 幸代 (IATSS 会員/日本大学生産工学部 教授)
- 塩見 康博 (IATSS 会員/立命館大学理工学部 教授)
- 小竹 元基 (IATSS 会員/東京工業大学工学院機械系 教授)
- 杉本 洋一 (IATSS 会員/(株)本田技術研究所先進技術研究所 フェロー)
- 鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 教授)
- 中尾田 隆 (IATSS 会員/池袋南法律事務所 弁護士)
- 浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科 教授)
- 村上 暁信 (IATSS 会員/筑波大学システム情報系 教授)

2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会

(1)インパクトファクター取得

2023年6月28日、2022年 Journal Impact Factor (JIF) が Clarivate Analytics 社から発表され、IATSS Research が初めて JIF “3.2”を取得した。

(2)定期発行

下記の通り、4号を定期発行した。

- ・Vol.47, Issue 1(R05.04) “Carbon Neutrality in transport sector”特集
- ・Vol.47, Issue 2(R05.07)投稿論文のみ
- ・Vol.47, Issue 3(R05.10)投稿論文のみ
- ・Vol.47, Issue 4(R05.12)投稿論文のみ

(3)次年度の発行計画及び特集企画

- ・Vol.48, Issue 1(R06.04 予定)投稿論文のみ
- ・Vol.48, Issue 2(R06.07 予定) “History and Social Impact of IATSS Research Projects”特集
- ・Vol.48, Issue 3(R06.10 予定)投稿論文のみ
- ・Vol.48, Issue 4(R06.12 予定)投稿論文のみ

(4)ジャーナルパフォーマンスの確認

定期的に編集委員会にて投稿数、登載率、被引用率等のジャーナルパフォーマンスの推移を確認した。

(5)Editor の増員

投稿数増加による Editor 補充のため、新たに 13 名の新規 Editor が選定され、就任した。

(6)査読スピードの改善

エディター兼サポートレビューアー制度を導入し、査読期間の短縮を図った。

(7)出版スピードの改善

今年度 7 月出版より Article-based publishing へと出版モデルを変更し、出版スピードの短縮を図った。

(8)スコープの見直し

一般投稿論文で受付ける分野の範囲と特集論文の意義および条件を明確に示したスコープ内容となるよう見直しを行った。

(9)海外エディターの功労賞制度の検討

長年 IATSS に貢献されてきた Advisory board の方々恒常的な制度として報いることを趣旨とし、功労賞制度の検討を行った。初年度は、創立 50 周年のイベントに Advisory board 4 名を招聘し表彰することとし、招待状を送付した。

(10)委員会開催実績

第 1 回(192 回)編集委員会(R05.05.15)

- ・今年度の編集体制
- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・47-1 発刊報告
- ・47-2 カーボンニュートラル特集の進捗報告
- ・47-2 創立 50 周年特集の進捗報告
- ・49-1 ESRA 特集の企画検討
- ・エディター兼サポートレビューアー運用ガイドラインの検討
- ・スコープの見直し検討(趣旨説明)
- ・投稿論文審査進捗報告

第 2 回(193 回)編集委員会(R05.07.11)

- ・インパクトファクター取得状況報告

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・47-2号カーボンニュートラル特集発刊報告
- ・48-2号 IATSS 創立 50 周年記念特集号の進捗報告
- ・49-1号 ESRA 特集進捗報告
- ・エディター増員について
- ・出版モデル変更について
- ・論文賞について
- ・投稿論文審査進捗報告

第 3 回(194 回)編集委員会(R05.9.26)

- ・インパクトファクター取得状況報告
- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・48-2号 IATSS 創立 50 周年記念特集号の進捗報告
- ・49-1号 ESRA 特集の進捗報告
- ・掲載料表示について
- ・エディターガイドラインの検討
- ・スコープの見直し
- ・功労賞制度の検討
- ・IATSS Research 論文の二次出版について
- ・投稿論文審査進捗報告

第 4 回(195 回)編集委員会(R05.12.12)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・47-3号発刊報告
- ・48-2号 IATSS 創立 50 周年記念特集号の進捗報告
- ・49-1号 ESRA 特集号進め方の検討
- ・プロジェクト論文の取扱いについて
- ・IATSS Research 論文の二次出版について
- ・AI アシストポリシーの検討
- ・掲載料徴収ポリシーの検討
- ・インパクトファクター取得報告の検討(内部報告会)
- ・功労賞制度の検討
- ・投稿論文審査進捗報告

第 5 回(196 回)編集委員会(R06.03.12)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・47-4号発刊報告
- ・48-2号 IATSS 創立 50 周年記念特集号の進捗報告
- ・49-1号 ESRA 特集進捗報告
- ・49-4号 ICSC 特集進捗報告
- ・IATSS Research 論文の二次出版について
- ・功労賞受賞者について

- MEDLINE 申請について
- 論文審査進捗

(11)英文論文集編集委員会メンバー(敬称略)

委員長 上條 俊介	(IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
木林 和彦	(IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
小早川 悟	(IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
大森 宣暁	(IATSS 会員/宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
紀伊 雅敦	(IATSS 会員/香川大学工学部創造工学部 教授)
後藤 孝夫	(IATSS 会員/(中央大学経済学部 教授)
福山 敬	(IATSS 会員/鳥取大学工学部社会システム土木系学科 教授)

(12) 英文論文集編集委員会メンバーを除く Editorial Board Members(敬称略)

●Associate Editors (37 名)

B. Barabino	(University of Brescia, Italy)
J. -M. Burkhardt	(Gustave Eiffel University, Bron, France, French)
S. Chalermpong	(Chulalongkorn University, Thailand)
Y.-S. Chung	(National Chiao Tung University, Taiwan)
A. M. Fillone	(De La Salle University, the Philippines)
V. M. Garikapati	(National Renewable Energy Laboratory, USA)
Y. Gu	(Ritsumeikan University, Japan)
S. Han	(The Korea Transport Institute, Republic of Korea)
P. Hancock	(University of Central Florida, USA)
N. Hashimoto	(National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Japan)
D. O. Hernandez	(University College London, UK)
YT. Hsu	(National Taiwan University, Taiwan)
H. Inoi	(University of Toyama, Toyama, Japan)
G. INTURRI	(University of Catania, Italy)
S. Jaensirisak	(Ubon Ratchathani University, Thailand)
D. Jain	(Indian Institute of Technology Delhi, India)
E. Javanmardi	(The University of Tokyo, Japan)
A. Kojima	(Saitama University, Japan)
S. Le Vine	(State University of New York at New Paltz, USA & Imperial College London, UK)
L. Malik	(Indian Institute of Technology Dhanbad, India)
T. Manabe	(Saitama University, Japan)
I. M.-Babiano	(University of Melbourne, Australia)
M. Matsuo	(Kobe University, Japan)
T. Osada	(Utsunomiya University, Tochigi, Japan)
E. Papadimitriou	(Delft University of Technology, the Netherlands)
A. WH Poi	(Malaysian Institute of Road Safety Research, Malaysia)

S. S. Pulugurtha	(The University of North Carolina at Charlotte, USA)
N. Saunier	(Polytechnique Montreal, Canada)
N.N. Sze	(Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, China)
R. Tay	(RMIT University, Australia)
M. Tira	(University of Brescia, Italy)
M. Vanderschuren	(University of Cape Town, South Africa)
V. Vichiensan	(Kasetsart University, Thailand)
K. Yoh	(Osaka University, Japan)
K. Yoshioka	(Nihon University, Japan)
C. Watling	(University of Southern Queensland, Australia)
K.-F. Wu	(National Chiao Tung University, Taiwan)

● Editorial Advisory Board Members (11 名)

N. Christie	(University College London, UK)
M. Hagenzieker	(Delft University of Technology, the Netherlands)
B. Heydecker	(University College London, UK)
B. E. Horn	(World Road Safety Institute, France)
P. Jones	(University College London, UK)
G. M. Mackay	(University of Birmingham, UK)
R. M. Pendyala	(Arizona State University, USA)
M. Tira	(University of Brescia, Italy)
G. Tiwari	(Indian Institute of Technology Delhi, India)
F. Wegman	(Delft University of Technology, the Netherlands)
S. V. Won	(Malaysian Institute of Road Safety Research & University Putra Malaysia, Malaysia)

III 褒賞事業

今年度は、第 44 回国際交通安全学会賞の贈呈式を行うとともに、第 45 回国際交通安全学会賞として、業績部門 1 件、著作部門 1 件、論文部門 1 件の授賞を決定した。

1. 第 44 回(令和 4 年度)国際交通安全学会賞贈呈式

令和 5 年 4 月 14 日(金) ハイブリッド(経団連会館+リモート)で開催した。

2. 第 45 回(令和 5 年度)国際交通安全学会賞

《業績部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、研究、施策の推進、普及、啓発、あるいは機器の開発、設備・施設の建設などに多大な業績をあげたものを対象に、過去 3 年以内に成果が顕著となった業績の中から選考される。

例年同様、公募による推薦と委員会メンバーの調査によって、候補業績の情報を収集し、今年度の候補業績 17 件について視察・ヒアリング調査及び審査を重ねた結果、1 件が選出された。

出典:第 45 回国際交通安全学会賞パンフレット

業績題目：住民との対話がはぐくむ新たな公共交通のかたち

～芳賀・宇都宮 LRT がもたらす人とまちの未来図～

受賞者：宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社

受賞理由：

2023 年 8 月 26 日に開業を迎えた芳賀・宇都宮 LRT(愛称:ライトライン)は、全線新設の次世代型路面電車システム(LRT)としては日本国内初となる路線です。導入への取り組みについては、自動車中心の生活という地域特性があるため、LRT 周知から進められ、周知パンフレットを配付したり、1,000 回を超える市民説明会を開催したりすることにより理解促進が進められてきました。

路線コンセプトの特徴に、中核都市として持続的な発展を目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成が挙げられています。住まい、医療、福祉、商業など生活に必要な施設や、産業・観光を集約した拠点がつくられ、これらを結ぶ路線として整備し、主要停留所にトランジットセンターを配して、各交通モード間の乗り換えの利便性が高められています。将来にわたり地域密着で支えられていく公共交通となるように、車両デザイン・内装についても、地域風土・季候を象徴した「雷」が統一デザインとして採用されています。また、愛称の選定、停留所名称の選定、各停留所の壁面個性化デザインの選定への地域住民の参加、およびネーミングライツやドネーションの募集への地域企業の参画が積極的に行われています。

以上のように、ライトラインの開業は、人口が減少するなかでの地方都市の新たな公共交通のかたちを、住民との対話による協働を交えて実現しました。今後、同様の問題を抱える国内の地方都市に広く活用できる先行事例となった点を、よりよい交通社会の実現に寄与するものとして高く評価いたしました。

《著作部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、過去 2 年間に初版として刊行された優れた著作・出版物の中から選考される。

今年度は 38 点について各委員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、1 件が選出された。

出典:第 45 回国際交通安全学会賞パンフレット

著書名 : フランスのウォークアブルシティ: 歩きたくなる都市のデザイン

受賞者 : ヴァンソン 藤井 由実

受賞理由 :

2010~2022 年の約 10 年間に、フランスの人口 10 万人以上の多くの都市において、ウォークアブルな都市づくりが実践されてきた様子を詳しく紹介する書籍です。パリをはじめとするフランス各都市のウォークアブルな都市づくりの事例紹介を通じて、中心市街地の自動車交通の抑制、道路空間の歩行者等への再配分、公共交通の充実を軸として行われた都市空間の再編とモビリティの再編を大胆に進める方法論を、その政治的・社会的・財政的・歴史的な背景とともに分かりやすく広く伝えています。

本著作は、15 分都市構想やウォークアブルシティが世界的な関心を集めているこのタイミングに適しています。またその内容は、豊富な具体例に関する写真と図解によって分かりやすく、統計に基づくグラフと出典の記載によって説得力を持つ形で示されており、研究者、行政担当者、市民のいずれにも示唆に富む知見を与えています。特に、実装の鍵となる自治体、政治家、行政、プロジェクト体制、財源、人材の多様性と社会の連帯といった特徴をインタビュー等に基づいて明らかにすることで、歩行者空間や交通環境の整備といった技術論だけでなく、どのような都市を作るのかといったビジョンや何のためにウォークアブルを推進するのかといった目的を、事業推進者と市民が共有することが大切であることを指摘しています。これにより、歴史的・社会的な背景が異なる日本の現場でも採用できそうな工夫を、多面的に考えるきっかけを与えてくれます。

以上により、本著作を国際交通安全学会賞著作部門に相応しいと判断いたしました。

《論文部門》

当部門は、国際交通安全学会誌(IATSS Review)及び英文論文集(IATSS Research)に掲載された論文の中から選考される。

本年度は、「IATSS Review」Vol.47,No2・Vol.47,No3・Vol.48,No1 に掲載された論文・論説 9 編および「IATSS Research」Vol.46,Issue3・Vol.46,Issue4・Vol.47,Issue1・Vol.47,Issue2 に掲載された論文 56 編について各委員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、1 編が選出された。

出典:第 45 回国際交通安全学会賞パンフレット

論文名 : Evaluation of risk factors for road accidents under mixed traffic:Case study on Indian highways

受賞者 : Sujata Basu , Pritam Saha

受賞理由：

新興国では経済成長に伴い自動車交通量が急増し、それに伴い交通事故も大きな問題となっています。交通事故の原因の分析については、すでに数多くの研究が蓄積されていますが、本研究が対象とするインドの West Bengal 州の高速道路は、その整備水準や交通状況が多様であり、先進国を対象とした既往研究では考慮されてこなかった交通事故のリスク要因も存在しています。本研究は、対象地域の 13 区間について、周辺土地利用や路面状況、交通状況等の多面的な道路の特徴を調査し、事故データと対応付けることでその要因を把握することを試みています。

その結果、中央ブロックへのアクセス、歩道と路肩状況、車両や運転の状況、時刻、レーン数などが影響することを見出しています。分析方法として、事故の発生状況についてはポアソン分布を用いてパラメータ化しており、定量的な分析が行われています。一方、交通事故リスクについては記述統計による定性的な評価にとどまっていますが、混合交通下におけるリスク要因の把握に成功しています。インドというデータ整備が十分ではない地域において、実地調査に基づきデータを収集し事故リスクの定量的な把握まで行った点で研究の努力が認められます。モータリゼーションが今後進展する途上国において、参照しうる知見を提供できるものと考えられます。途上国で急増する交通事故リスクへの対応という重要な課題に対して実直なデータ収集、分析を行っており、優れた論文であると評価いたしました。

3. 褒賞助成部会企画委員会

1)委員会開催実績

第 1 回委員会(R05.06.30)

- ・第 44 回学会賞贈呈式開催報告
- ・リサーチ委員長より論文査読について
- ・年間活動スケジュールについて
- ・学会賞授賞対象について
- ・「業績部門」「著作部門」の募集と、各部門の選考方法について
- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」査読の割り振り
- ・「論文部門」査読の割り振り
- ・審査基準について
- ・創立 50 周年に向けて
- ・推薦文・経過報告用文章について

第 2 回委員会(R05.09.08)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査および査読の割り振り
- ・「論文部門」審査および査読の割り振り
- ・ユース制度について情報共有
- ・視察・ヒアリング日程について

第3回委員会(R05.11.01)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査
- ・「論文部門」審査
- ・ユース制度について情報共有
- ・視察・ヒアリング日程について

第4回委員会(R05.12.20)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査
- ・「論文部門」審査

第5回委員会(R06.01.19)

- ・「業績部門」候補、推薦文担当決定
- ・「著作部門」候補、推薦文担当決定
- ・「論文部門」候補、推薦文担当決定

2)ヒアリング・視察

- ・宇都宮 LRT について森本会員にヒアリング(R05.10.06)
- ・宇都宮 LRT 視察(R05.12.20、R05.12.22)
- ・熊本県南阿蘇震災復興現場視察・ヒアリング(R05.12.25)

3)会員信任投票

候補信任(R06.02.14 締切)

4)理事会

候補承認(R06.02.27)

5) 褒賞助成部会企画委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学総合教育センター 教授)
- 加藤 一誠 (IATSS 会員/慶應義塾大学商学部 教授)
- 紀伊 雅敦 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
- 小早川 悟 (IATSS 会員/日本大学理工学部 教授)
- 斎藤 誠 (IATSS 会員/東京大学大学院法学政治学研究科 教授)
- 関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)
- 中川 由賀 (IATSS 会員/中京大学法学部 教授)
- 浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科 教授)
- 福山 敬 (IATSS 会員/鳥取大学理工学部 教授)
- 松橋 啓介 (IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会システム領域 室長)

IV IATSS フォーラム事業

国際交流も踏まえた研修事業として、1985 年 9 月に設立され、アジア諸国の若い有望な人材を日本に招請し、各参加国での持続可能な社会の実現に寄与する人材の育成を進めている。

新型コロナウイルスの影響により、3 年間中断していた来日研修を今年度より再開。春期・秋期の 2 回のフォーラム研修をアジア 10 ヶ国計 39 名の研修生が無事修了した。

また来期に向け、IATSS フォーラム研修の進化を目的に、IATSS 本体のリソースを更に活用し、交通・モビリティ系のテーマを題材とした新研修コンテンツ開発を進め、令和 6 年度フォーラム研修のセミナーおよびフィールドスタディー内容を一新した。

事業各項目の内容は以下のとおりである。

1. IATSS フォーラム研修 再開

COVID-19 流行により、令和 2 年度から令和 4 年度の 3 年間中断していた IATSS フォーラム研修を本年度より再開した。コロナ禍が完全に収束したとは言えないなか、感染予防・感染発生時対応策を講じた上で、35 日間に日程を圧縮し、春・秋 2 回の研修を実施した。今年度より東日本大震災被災地域を題材とした東北フィールドスタディーを導入し、防災/減災や被災からの復興、そして持続可能な復興・街づくりのなかで発揮されたリーダーシップのあり方を現地で見聞・体感する貴重な体験となった。中断の 3 年間待機していたアジア 10 ヶ国と日本からの計 39 名の研修生が、35 日間の研修を無事修了した。

2. 新研修コンテンツ開発

来期からの導入に向け、IATSS 本体のリソースをこれまで以上に活用し、交通・安全やモビリティに関する題材を多く取り入れた新研修プログラムを開発。「モビリティを通じた Well-being の向上」をテーマとした新研修プログラム開発が完了。開発に先立ち、令和 5 年 11 月 1 日に IATSS フォーラム国際委員長会議を開催、新プログラムのコンセプトや内容を説明し、各国委員長・事務局からの賛同を得た。

3. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会

1) 委員会開催実績

令和 5 年度は、6 回の実行委員会を開催した。

第 157 回実行委員会(R05.09.07)

- ・令和 5 年度春フォーラム研修の結果共有
- ・令和 5 年 11 月開催の国際委員長会議について
- ・令和 6 年度新研修コンテンツ開発ワーキンググループ状況共有
- ・令和 6 年度研修プログラム開催日数について
- ・国際同窓生会議(IAM)、40 周年事業について提案

第 158 回実行委員会(R05.12.11)

- ・令和 6 年度新研修コンテンツ開発ワーキンググループ状況の共有
- ・令和 7 年度募集審査について

第 159 回実行委員会(R05.12.27)

- ・新研修プログラム開発状況の共有
- ・セミナー骨子案の審議
- ・宇都宮フィールドスタディー全体スケジュールの相談

第 160 回実行委員会(R06.01.26)

- ・令和 6 年度研修編成について
- ・セミナー骨子案審議
- ・電子承認頂く際のルールについて
- ・新研修コンテンツ開発状況の共有と相談
- ・同窓会プロジェクトの承認依頼

第 161 回実行委員会(R06.02.28)

- ・新研修コンテンツ開発状況の共有
- ・第 65 回、第 66 回確定スケジュールの共有
- ・同窓会プロジェクトの承認依頼
- ・宇都宮フィールドスタディー調整状況の進捗報告

第 162 回実行委員会(R06.03.29)

- ・新研修コンテンツ開発状況の共有
- ・宇都宮フィールドスタディー調整状況の進捗報告
- ・(仮)IATSS フォーラム 40 周年事業および国際同窓生会議の計画状況について

2) IATSS フォーラム実行委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/日本自動車研究所 新モビリティ研究部 主席研究員)
川口 純 (IATSS 会員/筑波大学教育学域 准教授)

IATSS フォーラム部会特別委員

- 芦田 明美 (名古屋大学大学院国際開発研究科 准教授)
葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科 助教)

3) 現地委員会

例年、現地委員会主導で IATSS フォーラム研修生選抜の書類審査/面接審査を実施している。令和 4 年度は選抜期間を短縮、7 月から 10 月までの募集期間後、現地委員会による書類選考/面接審査を経て、令和 6 年 1 月に令和 6 年度研修参加者 40 名の選抜を完了した。

- (1) IATSS フォーラム インド委員会
委員長 Geetam Tiwari (インド工科大学教授)
事務局 Bhawana Luthra (LEAD インディア)
- (2) IATSS フォーラム インドネシア委員会
委員長 Abdi Hamudani (PT. Jasuindo Tiga Perkasa, Tbk 人事部長、46 回生)
事務局 Henky Sumardy (アストラホンダモーター財団)
- (3) IATSS フォーラム カンボジア委員会
委員長 Oum Ravy (プノンペン大学 副学長)
事務局 Nuon Kossoma (Cambodia Japan Cooperation Center(CJCC)人材開発)
- (4) IATSS フォーラム シンガポール委員会
委員長 George Abraham (GA グループ Ltd. 会長兼代表取締役)
事務局 Jenny Ng (NUSS)
- (5) IATSS フォーラム タイ委員会
委員長 Phirun Saiyasitpanich (気候変動・環境省 長官)
事務局 Uma Srisuk (気候変動・環境省)
- (6) IATSS フォーラム フィリピン委員会
委員長 Maridon Onda Sahagun (科学技術省 事務次官)
事務局 Leonard Ladiero (科学技術省)
- (7) IATSS フォーラム ベトナム委員会
委員長 Vo Dai Luoc (ベトナムアジア太平洋経済センター VAPEC 会長)
事務局 Nguyen Canh Binh (ベトナム インテレクチャル コーポレーションセンター)
- (8) IATSS フォーラム マレーシア委員会
委員長 Dato' Zuraidah Atan (ズライダーアタン弁護士事務所代表)
事務局 Rofina Yasmin Othman (マラヤ大学 UM ICE)
- (9) IATSS フォーラム ミャンマー委員会
委員長 Zaw Min Win (ミャンマー産業協会 シニアアドバイザー)
事務局 Pyai Pyai Pwint (ミャンマー産業協会、47 回生)
- (10) IATSS フォーラム ラオス委員会
委員長 Vanhpheng Khounbolay (ラオス青年同盟 職業訓練局副局長)
事務局 Sisomphone Tipanya (ラオス青年同盟)

V 国際交流事業

1. 国際フォーラム実行委員会

1) 第9回 GIFTS 開催概要(敬称略)

①シンポジウム(公開):「交通文化が支える持続可能な社会」

- 日時 : 令和5年12月2日(金) 14:00-17:00
場所 : 東京コンベンションホール
開催形式 : ハイブリッド(会場参加・リモート参加)
開会挨拶 : 武内 和彦(IATSS 会長)
趣旨説明 : 中村 彰宏(IATSS 会員/GIFTS 実行委員長)
基調講演 : ニコラス・ウォード(モンタナ州立大学名誉教授/Leidos 上級主席研究員)
 ロッテ・ブロンダム(Alliance of NGOs for Road Safety Executive Director)
司会 : 馬奈木俊介(IATSS 会員)
パネリスト : ニコラス・ウォード、ロッテ・ブロンダム、リンザ・ウェルズ(IATSS フォーラム同窓生
 /MDF Traffic Planners & Consultants Director)、北村友人(IATSS 会員)
参加者 : 268名(会場94名、リモート174名)

②ワークショップ(非公開):「Beyond50 ビジョン・ストラテジー策定に向けたキックオフ」

- 日時 : 令和5年12月3日(土) 14:30 ~ 17:35
場所 : 東京コンベンションホール
開催形式 : ハイブリッド(会場参加・リモート参加)
開会挨拶 : 中村 彰宏(IATSS 会員)
趣旨説明 : 土井 健司(IATSS 会員)
話題提供1: 森本 章倫(IATSS 会員)「国際共同社会実装展開プロジェクト現状と展望」
話題提供2: 中村 英樹(IATSS 会員)「国際共同研究展開プロジェクト現状と展望」
話題提供3: 堀口 良太(IATSS 会員)「研究調査プロジェクトの振り返りと展望」
話題提供4: 土井 健司(IATSS 会員)「クロスストラテジーについて」
討議 : 研究調査プロジェクト推進の課題と対応
 GIFTS 振り返り
 ポジティブなモビリティ社会を目指すビジョン・戦略
参加者 : 32名(会場24名、リモート8名)

2) 委員会開催実績

第1回実行委員会(R05.05.15)

- ・第9回 GIFTS 基調講演、パネルディスカッション登壇者について

第2回実行委員会(R05.08.01)

- ・シンポジウムのテーマ、趣旨文について
- ・シンポジウムの時間配分等について
- ・ワークショップの進め方について

第3回実行委員会(R06.01.08)

- ・第9回GIFTSの振り返りについて
- ・第10回GIFTSの方向性について

第4回実行委員会(R06.03.02)

- ・第10回GIFTSのプログラム、タイムテーブルについて
- ・基調講演登壇者について

5) IATSS 国際フォーラム(GIFTS)実行委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
- 委員 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
- 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科 教授)
- 堀口 良太 (IATSS 会員/㈱アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)
- 馬奈木俊介 (IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院 教授)
- 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院 教授)
- 吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

2.ATRANS (Asian Transportation Research Society) への業務委託

(1)業務委託

下記の6テーマの業務委託研究を実施した。

- ① The implementation of a demerit point system: Will it improve driving discipline, road safety, and legal compliance?
- ② Assessing the impact of carsharing and mass rapid transit Integration on travelers' equity in Bangkok
- ③ An Integrated Evaluation Approach of Pedestrians' Built Environment for Sustainable Transport
- ④ Developing Road Safety Education Programme for Primary Schools in Thailand
- ⑤ Safety Perception of Rail Passengers Using Motorcycle Taxi as Station Access/Egress
- ⑥ Analysis of Traffic and Safety Performances of Roundabouts in Community Areas in Thailand Phase 2

(2)実績

■業務委託_報告会

- ・中間報告会 (6つの研究テーマの中間報告)
開催日 :令和5年8月31日
形態 :ハイブリッド開催
場所 :Chatrium Grand Hotel Bangkok (タイ_バンコク)
- ・Semi-Final 報告会 (6つの研究テーマの最終報告)
開催日 :令和6年1月18日
形態 :ハイブリッド開催

- 場所 :TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋 (日本_東京)
・IATSS 内部報告会 (ATRANS 紹介、選出された研究テーマ③の内部報告)
開催日 :令和 6 年 3 月 2 日
形態 :ハイブリッド開催
場所 :経団連ホール (日本_東京)

■カンファレンス_共催

- イベント:16th ATRANS Annual Conference (Symposium)
テーマ :“Transportation for a Better Life”
開催日 :令和 5 年 9 月 1 日
形態 :ハイブリッド開催
場所 :Chatrium Grand Hotel Bangkok (タイ_バンコク)
共催 :・オープニングセッション_ウェルカムメッセージ (河合専務理事)
・IATSS 会員のセッション_講演 (4 名)
・IATSS 展示ブース_設営

3.ESRA3 プロジェクトへの参画

(1) 研究目的と概要

平成 30 年度より当学会は「ベルギー道路交通安全研究所」“Vias institute” がとりまとめ/調整を行っている国際プロジェクト“ESRA(E-Survey of Road users’ Attitudes)” に日本の研究機関として参加している。すでに ESRA2 展開において、48 か国約 45,000 人の道路利用者を対象とした意識調査を実施し、各国の規範意識及び交通行動の客観的データが集計・分析され、交通安全施策に資する報告書を作成した。

令和 3 年度より 3 か年計画の ESRA3 が開始となり、令和 5 年度(本年度)は、調査実施に向けたアンケート設計や、結果分析・普及活動計画検討などの実務を展開。当学会はステアリングメンバーとして企画運営会議(現地、リモート)に参加している。

(2) 実績

- ・ESRA3 アンケート設計 (～R05.04.26)
日本アンケート、英語から日本語への翻訳を実施。
最終確認の後、アンケート設計を完成させた。
- ・ESRA3 Steering Meeting 現地参加 (R05.06.19@ベルギー_ブリュッセル)
ESRA3 調査の進捗状況を共有、アンケート調査項目や今後の展開などについて議論した。
また、他のステアリングメンバー(NGO、研究機関など)との情報交換やネットワーク強化を行った。
- ・ESRA3 First output の確認 (～R05.10.18)
Country Fact Sheet Japan、Table report、National data files、Thematic reports 等
各ステアリングメンバーにて、各担当地域などの確認を実施した。

- ESRA3 Steering Meeting リモート参加 (R05.10.18)
ESRA3 結果分析進捗状況を共有、ESRA3 結果普及活動の最新状況、テーマ別レポートなどについて議論した。
- ESRA3 Steering Meeting リモート参加 (R06.03.20)
Thematic reports 草案作成および追加情報について議論した。

4.海外研究機関等とのネットワークの強化

(1) 目的と概要

創立 50 周年に向けた国際性強化の取り組みの一環として、従来事務局主導で進めてきたネットワーク維持・強化活動を継続推進。

令和 5 年度はカンファレンスやミーティング等に参加することで、今世界で注目されている交通社会に関わる課題やキーワードなどを整理し取りまとめるとともに、ネットワーク強化を行った。

(2) 実績

- ETSC(European Transport Safety Council) CONFERENCE (R05.06.20 ベルギー)
現地にてカンファレンスに参加し、交通と安全に関する課題やキーワード等の情報を収集した。
収集した情報を今後の交通社会に関わる種となるように整理・取りまとめを行った。
- BAST(ドイツ連邦道路研究所) Meeting (R05.06.22 ドイツ)
現地にて道路設計・交通制御研究室長とミーティングを実施し、情報交換・ネットワーク強化を行った。
- VISION ZERO CONFERENCE (R05.06.26-27 スウェーデン)
現地にてカンファレンスに参加し、交通と安全に関する課題やキーワード等の情報を収集した。
収集した情報を今後の交通社会に関わる種となるように整理・取りまとめを行った。
また、参加団体(NGO、研究機関、警察など)との情報交換やネットワーク強化を行った。
- TRAFIKVERKET(VISION ZERO CONFERENCE 事務局) Meeting (R05.06.28 スウェーデン)
カンファレンス事務局とのミーティングを実施し、情報交換・ネットワーク強化を行った。
- TRB(Transport Research Board) ANNUAL MEETING (R06.01.07-22 アメリカ_ワシントン)
現地にてカンファレンスに参加し、交通と安全に関する課題やキーワード等の情報を収集した。
収集した情報を今後の交通社会に関わる種となるように整理・取りまとめを行った。

VI 事業運営等

1. IATSS の主たる事務所(旧ホンダ八重洲ビル 3 階)の移転

IATSS の主たる事務所が入居していた旧ホンダ八重洲ビルが、八重洲地区再開発事業に伴い解体されるため、令和 5 年 4 月に仮移転を行った。

仮移転先:東京都中央区八重洲 2-1-1 YANMAR TOKYO 6階
(令和5年4月17日より稼働開始)

なお、旧ホンダ八重洲ビルを含む地域の再開発により大型ビルが建設予定となっており、竣工後はそちらに戻る予定。(6年後となる令和11年度)